



HOSEI

学習支援ハンドブック2012
MAKING THE MOST OF YOUR UNIVERSITY EDUCATION
A Guide for Freshers

学習支援ハンドブック 2012

MAKING THE MOST OF YOUR UNIVERSITY EDUCATION A Guide for Freshers

MAKING THE MOST OF YOUR UNIVERSITY EDUCATION

A Guide for Freshers



学習支援ハンドブック2012

法政大学

法政大学

學而不思則罔
思而不學則殆

学びて思はざればすなはち罔^{くら}く

—— いくら勉強したって、自分の頭で考えなきゃダメなんだ

思ひて学ばざればすなはち殆^{あやふ}し

—— いくら自分の頭で考えたって、勉強しなきゃダメなんだ

大内兵衛元総長の筆による論語の一節（市ヶ谷キャンパス55年館ホール）



法政大学ようこそ！

法政大学の歴史	4
校歌を知ろう！	10
法政大学のお宝コレクション	14
キャンパスマップ・私のキャンパス、ここがおすすめ！	
市ヶ谷キャンパス	18
多摩キャンパス	20
小金井キャンパス	22

大学での「学び」とは

時間割をつくる	24
履修や成績などにかかわる各種システムを利用しよう！	26
ノートの取り方	28
コラム 受講のマナー	31

演習（ゼミ）	32
レポートを書く	38
コラム 剽窃（plagiarism）とは	41
信頼できる情報を集める～図書館で・インターネットで～	42
大学の図書館を使いこなそう！	44
インターネットで文献を探してみよう！	48
成績評価を受ける GPAとは	54
授業改善アンケート	60
困った時の学習Q&A	64
あなたも挑戦してみよう！～法政大学のコンテスト・奨励制度～	68
2011年度FD学生の声コンクール作品集	72
学生座談会「私語のない授業にするには？」	95



法政大学によろこそ！

これからあなたも、法政大学コミュニティの一員です。15学部と大学院に在校生約4万人、教職員も1千人を超え、そして卒業生累計42万を超える大きなコミュニティが法政大学です。これほど多くの人々と「法政大学」というつながりで仲間になるのです。

法政大学の歴史

法政大学にどのようなイメージを抱いていますか？

リベラルな学校？ スポーツの法政？ それとも、つねに改革を続ける大学でしょうか？

自由な発想で新たな挑戦を続けるその精神——「自由と進歩」「進取の気象」は、法政大学建学の時代から受け継がれてきたものです。1880（明治13）年、こうした精神のもとに東京法学社として誕生して以来132年間。法政大学は、「学則」の第一条に謳われるとおり、「民主主義の精神に基づき」、あまたの「公共の福祉に献身する」自立した人材を輩出してきました。

近代化の道を歩み始めたばかりの明治の日本が、西欧の近代的な諸制度を取り入れるためにフランスから招いた法学者が、ボアソナードでした。その門下に学んだ若き法学者、薩埵正邦らが、当時、国会の開設等を求めて高まった自由民権運動の気運の中で、法律の実務と教育と二つの機能を併せ持つ東京法学社を設立。翌1881年には教育機能を独立させて東京法学校を作りました。これが法政大学の母体です。

📖 法政大学の歴史については、諸資料がありますが、『法政大学1880-2000：そのあゆみと展望』（2000年）が写真や図なども交え、見やすくまとまっています。

市ヶ谷キャンパスの外濠校舎6階には法政大学の歴史についての展示もあります。一度見に行ってみるとよいですね。

📖 大久保泰甫著『日本近代法の父・ボアソナード』（岩波新書 1977年）



薩埵正邦（1856-1897）

薩埵正邦は本学の前身である東京法学社創立の際、中心となって尽力した人物です。薩埵は、1856年に京都で「町人の哲学」として知られる石門心学の家に生まれました。幼くして両親を亡くしましたが、6才にして『大学』（儒学の経書）を暗誦するなど神童のほまれ高く、15歳で京都仏学校に入学、フランス人教師レオン・デュリーに仏語を学び始めます。1875年、デュリーが東京開成学校に転じたため、彼も恩師に従って上京しました。しかし、家が貧しかったため正式に学校に入学することはできず、フランス語の知識をたよりに、独学で法律を学び、その努力が仏法学者の桜井能監に認められ、1878年に内務省雇となりました。

翌年、幸運な転機が訪れます。法典編纂のため日本政府に招かれていたボアソナード博士と出会い、以後6年間にわたって直接指導を受けることになったのです。博士は彼を非常に愛し、博士の推薦で、司法省雇、民法編纂局勤務となりました。

1880年、東京法学社を金丸鉄・伊藤修らと設立。翌年、東京法学校の独立後、薩埵は若冠25歳で東京法学校主幹という学校の最高責任者となり、学校の発展に情熱を傾けました。

彼を顕彰するため、本学は2007年に竣工した外濠校舎6階の大ホールを「薩埵ホール」と名付けました。



ボアソナード (Gustave Emile Boissonade de Fontarabie.1825-1910)

東京法学社は薩埵らボアソナード博士の薫陶を受けた若者たちによって設立されました。その意味でボアソナード博士は本学の父とも呼べる存在です。

ボアソナードは、1825年、フランス・ヴァンセンヌ市に生まれました。パリ大学を卒業し、博士号を取得した後、グルノーブル大、パリ大の教授を歴任、1873年、政府の法律顧問として日本に招かれ、太政官、司法省、外務省などの顧問として、20年間にわたり法典編纂や、司法省法学校の教授、政府の外交政策への助言などに尽力しました。

1883年9月、愛弟子の薩埵らが設立した東京法学校の教頭に就任した博士は、以後最終帰国まで約10年間にわたり、無報酬で門弟の教育に情熱を注ぎ、本学の基礎固めに精魂を傾けました。博士の影響下で設立された学校は他にもありますが、本学への肩入れは特別なものだったようです。

博士は日本に永住する決意をしておりましたが、1892年に心血を注いだ民法典が流産の憂き目に会うのを見て、1895年に失意の内に帰国。晩年は南フランスのアンチーブで過ごし、1910年に亡くなりました。

2000年4月に竣工した「ボアソナード・タワー」は、学内で広く名称公募した結果、本学草創期に大きな功績を残されたボアソナード博士にちなんで命名されました。

法政大学にはもう一つ、ルーツがあります。それは語学をはじめとするフランス学を教授するため、1886年に設立された東京仏学校です。神田小川町で隣り合い、同じフランス系の学校であった両校は1889年に合併、新たに和仏法律学校として生まれ変わりました。

この時に選ばれたのが富士見の地—現在の市ヶ谷キャンパスのごく近く、今よりもやや東側です。江戸が都市として建設された時、その中心にあった江戸城（現在の皇居）の内濠と外濠の間であって、まさに東京の中心に位置するところ。江戸時代には、江戸城を取り囲むように数多くの旗本等の屋敷が並んでいた山の手の地です。

その後、法令の改正にともなって1903年に和仏法律学校法政大学、そして1920（大正9）年にはついに日本有数の総合大学、法政大学として発足、まもなく現在の市ヶ谷校地に移りました。

1964年には理工系学部のために小金井キャンパスを、1984年には多摩キャンパスをオープン。時代と社会のニーズに合わせ、将来を展望して、現在、3キャンパスに15学部、14大学院研究科・3専門職大学院を展開しています。

また、大学で学びたいという社会人の要望に応え、戦後も間もない1947年には通信教育部を開設しています。日本で最初の試みであったこれも、法政大学らしい、時代の要請に応える事業でした。

つねに社会の変化を見すえて自由な発想で挑戦を続ける精神は、今日も変わりません。歴史と伝統に甘えることなく、「進取の気象」をもって新たな改革に挑む、「自由と進歩」の精神が全学に息づいています。

もっと詳しく知りたい人は、前期の市ヶ谷基礎科目「法政学への招待」(0群)を履修しましょう。



梅謙次郎 (1860-1910)

1889年、東京法学校は東京仏学校と合併、和仏法律学校となり、さらに、1903年には専門学校令により和仏法律学校法政大学へと発展していきました。この時期に活躍したのが、日本の「民法の父」梅謙次郎博士です。梅博士は本学の「中興の祖」とも称されます。

梅謙次郎は1860年、松江藩の侍医の次男として生まれました。幼少より俊秀の誉れ高かった梅博士ですが、藩制の解体により一家は零落。上京後は大道の夜店で足袋手拭などを売りながらカンテラの灯りで書見に励むなどの刻苦精勤し、東京外国語学校仏語科を最優等で、司法省法学校は首席で卒業しました。卒業後は東京大学法学部教員等を歴任。フランス留学では、リヨン大学から「和解論」によって法学博士の学位を授与され、これによりリヨン市から賞碑が贈られ、同論文が市費出版されるという名誉も受けました。その後、富井政章（のちに本学校長）らからの懇請で、梅博士は和仏法律学校に来ることになりました。以後、和仏法律学校校長、そして和仏法律学校法政大学初代総理に就任、1910年に51歳で急逝するまでの20年余、本学のために働き続け、その間給与は一切受け取らなかったといひます。

なお、梅博士が創設した清国人留学生のための「法政速成科」は胡漢民・汪兆銘・宋教仁等の中国近代史に名を残す人々を多く輩出したことで知られています。



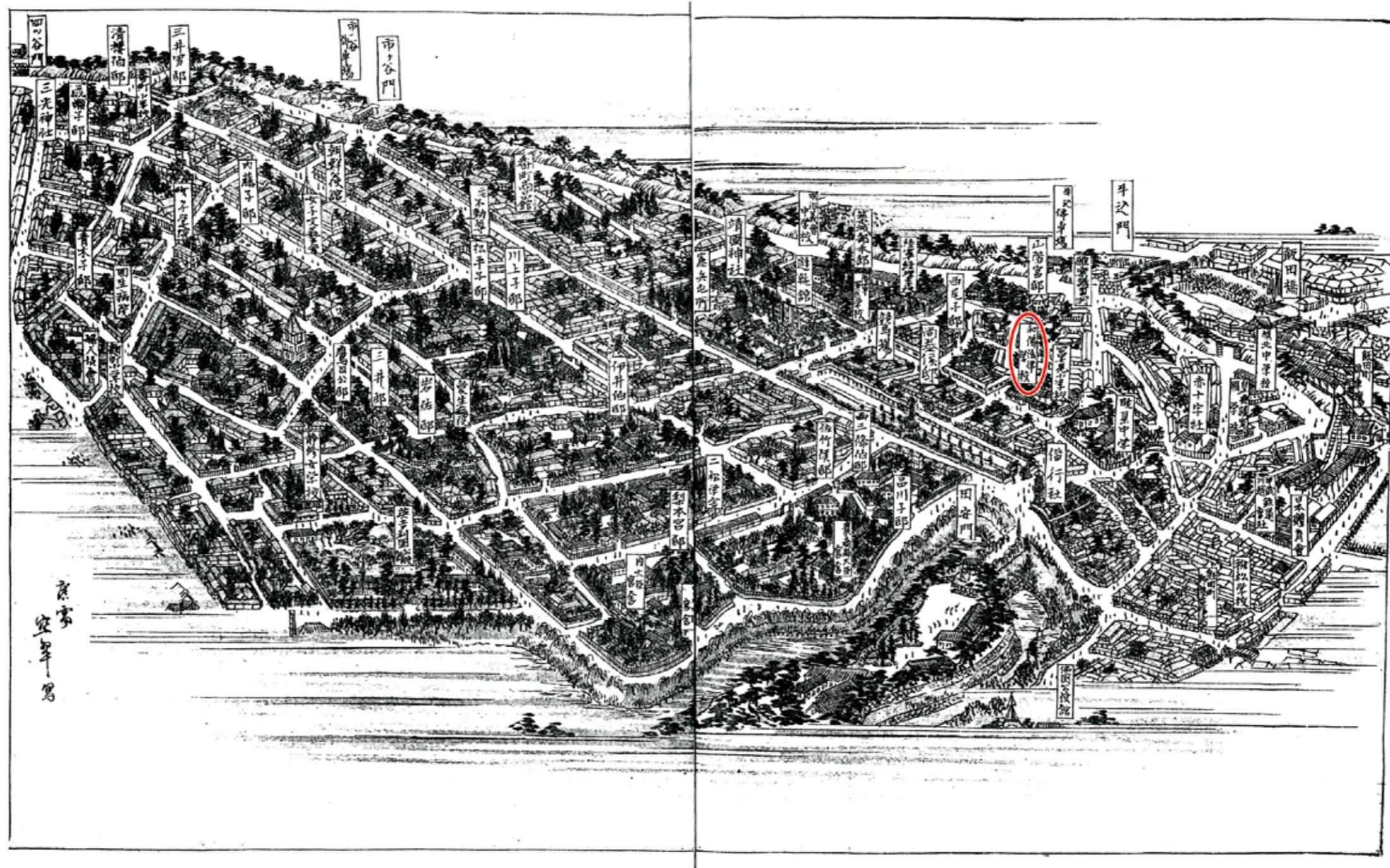
大内兵衛 (1888-1980)

大内兵衛は著名な経済学者・財政学者で、1950年から1959年まで本学の総長を務め、戦後における本学発展の基礎を築きました。

大内は1888年、兵庫県淡路島で生まれました。第五高等学校、東京帝国大学法科大学経済学科卒業後、大蔵省に勤務。1919年、新設された東京帝国大学経済学部の助教授となりました。しかし、1920年の森戸事件、1938年の人民戦線事件といった戦前期日本の言論弾圧事件のため、退官と復職の繰り返しを余儀なくされます。

1949年に東大を定年退官した直後の1950年、友人であった錦織理一郎・久留間鮫造（共に経済学部教授）や中野勝義（本学OB、全日空の創立者の一人）などの多くの本学関係者の説得により、本学の総長に就任、以後約9年間にわたって、戦争により多大な被害を受けた本学の立て直しに尽力しました。

現在も市ヶ谷キャンパスの中心に位置する55・58年館は大内総長時代に建設されたもので、今日も55年館ホールに掲げられている「学而不思則罔、思而不学則殆（学びて思はざればすなはち罔く、思ひて学ばざればすなはち殆し）」という『論語』の一節を記した書は、漢詩・漢文に親しみ、能書家であった大内総長の筆によるものです。



風俗画報臨時増刊『新撰東京名所図会』第19編（1899年）掲載「麹町区総図其二」（石塚空翠画）

右上「牛込停車場」（今の飯田橋駅）の少し下に「和仏法律学校西」が見える。

校歌を知ろう!

入学式で聞いた法政大学校歌、覚えているでしょうか?

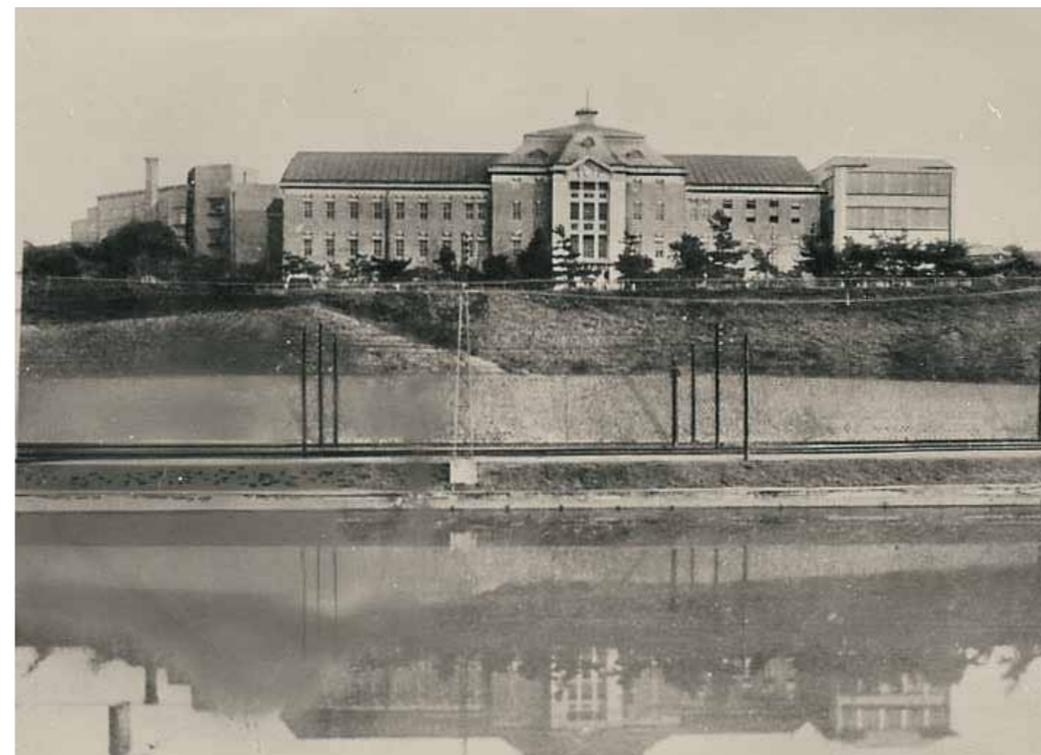
- 1 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
見はるかす窓(の)富士が^ね峯の雪
螢集めむ 門の外濠
よき師よき友 つどひ結べり
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

- 2 若きわれらが命のかぎり
ここに捧げて(ああ)愛する母校
われひと共にみとめ^{ふう}たらすや
進取の氣象 質実の風
青年日本の代表者
法政 おお わが母校
法政 おお わが母校

出だしから、若い我々学生はこれからずっと命の続くかぎり愛する母校のために尽くすのだという志を謳います。

1番の「見はるかす窓の富士が峯(ね)の雪、螢集めむ門の外濠」は、学び舎としてふさわしい校地を讃えます。その名も富士見から、はるか遠くに雪を頂く富士山を望み、清らかな水をたたえ螢が飛ぶ外濠に隣接する法政大学には、「螢雪」が揃っていて勉学に励むのに最適だという意味です。螢の光や窓の雪の光で勉学に励んだ中国古代、六朝時代の学者車胤・孫康の「螢雪の功」の故事をふまえた表現です。昔は外濠も螢が住めるほどにきれいだったのでしょう。富士山は今もよく晴れた日にはボアソナードタワーの上層階から望むことができます。

2番の「われひとともに認めたらすや、進取の氣象、質実の風」は、我々学生たちもまた他の人々も皆が認める(「~たらすや」は反語ですね)、時代を先取りする法政大学の自由な精神、飾らない学風を称えます。



外濠の向こうに見える戦前の市ヶ谷キャンパス

法政大学のスクールカラー

オレンジとブルーです。古い応援歌の歌詞によると、2つの色は「暁の太陽」と「青空」を表しています。

さまざまな大学グッズ、大学の刊行物、体育会のユニフォーム等、さまざまなところに使われています。

覚えておくとよいですね!



法政大学ホームページ
<http://www.hosei.ac.jp>

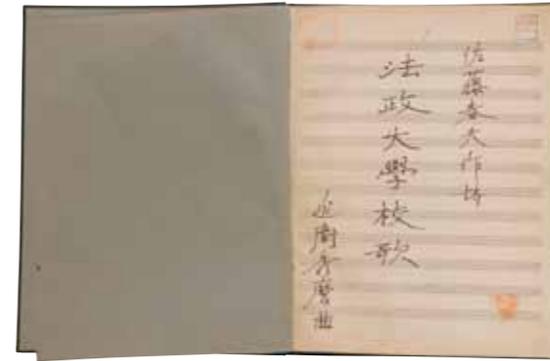
この校歌は、それまで歌われていた校歌（現、行進曲）に代わって、1930（昭和5）年に制定されたものです。学生の投票で選ばれ、当時本学で講師を務めていた佐藤春夫が作詞。近衛秀麿に作曲を依頼したものです。佐藤春夫は、抒情的な作風で知られる詩人で、小説や随筆等にも多才さを発揮した、大正・昭和初期を代表する作家の一人。近衛秀麿は、後に首相を務める近衛文麿の弟で、指揮者・作曲家として、草創期の日本のオーケストラ運動を担った人物です。

法政大学ホームページでは、校歌を聴くことができます。六大学の校歌の中でも音域が広く、美しい旋律をもつこの校歌。ぜひ、その意味をかみしめながら聞いてみてください。



入学式での校歌斉唱

📖 霞五郎「校歌の由来まで」(『法政大学物語百年史』法友新聞社 1981年)



佐藤春夫



近衛秀麿



近衛秀麿直筆法政大学校歌楽譜

法政大学図書館編
『法政大学所蔵文庫案内』
(1991年)

法政大学のお宝コレクション

法政大学図書館

「進取の気象」あふれる法政大学にも、長い歴史の中で法政大学にゆかりのある先人たちから寄贈を受けるなどした知の遺産の数々が保存されています。とくに市ヶ谷図書館には、誰しもが驚く貴重な蔵書があります。開架に並ぶ図書だけを見て侮るなかれ!ここでは、その一端をご紹介します。



④

④子規旧蔵中国明版『古今小説』挿絵

馮夢竜編の口語(白話)による短編小説集。上田秋成『雨月物語』をはじめ多くの日本の作品に影響を与えたことが知られています。世界に3点しか現存しないとされる貴重な典籍です。



⑤

⑤子規旧蔵『父の恩』

二代目市川團十郎が父の初代團十郎追善のために編んだ俳書。錦絵(多色刷り浮世絵)以前の色刷りの技術をうかがわせる貴重な書物です。

正岡子規文庫

俳句・短歌と、日本の詩歌を革新したことで名高い正岡子規(1867-1902)が所蔵していた書籍が2000冊余、貴重書として保管されています。子規の没後、その蔵書を守り伝えた門人寒川鼠骨によって1949年に法政大学に寄贈されました。これには、子規との交友が知られる夏目漱石の門人で、この時、法政大学の総長であった能楽研究家で英文学者の野上豊一郎、図書館長であった田村輝雄らの尽力があったといえます。自筆ノート類の他、子規が力を入れていた俳諧の書籍を中心に、中国で刊行されたものも含めて数多くの漢詩文の書籍、写生を唱えた子規らしく関心が高かった絵画関係の本、また、明治の知識人らしい英文の書籍など、多種多様な書籍が多数含まれています。熱心に読み込んだらしく、それらにはときに子規の書き込みが見られることも貴重です。



学生時代の子規のノート(自筆)



和辻哲郎文庫

「和辻倫理学」として知られる独自の思想体系を築いた和辻哲郎(1889-1960)の旧蔵書です。和辻と聞いてピンとこない人も、『古寺巡礼』(1919)の著者といったら分かるでしょうか。かつて法政大学文学部哲学科で教鞭をとったこともある和辻の没後、その夫人照の意志によって、友人で法政大学哲学科教授谷川徹三(後に総長、詩人・谷川俊太郎の父)を介して、一括して寄贈されました。

和・洋併せて5000冊におよぶその蔵書には、随所に疑問や論評などの書き込みが見られ、それらを通して、宗教や古典文学、芸能、風土など多岐にわたる広い視野から日本人の精神史を捉えた和辻の思考、研究の跡が辿れる点は何よりも貴重です。

三木清文庫

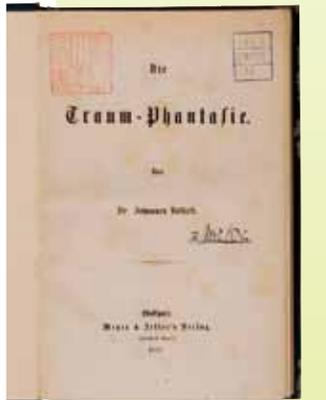
本学文学部哲学科の教授を務め、治安維持法違反の嫌疑を掛けられて獄中で非業の死を遂げた哲学者三木清(1897-1945)の旧蔵書8000余冊です。人生の諸要素を考える手がかりとして今も広く読み継がれる『人生論ノート』で知る人も多いでしょうか。京都で西田幾多郎に、ドイツでハイデッガーに学んだ三木の膨大な蔵書は、その半数近くが洋書で、当時のドイツ哲学文献の宝庫です。三木の没後、遺族に守られていたものを1950年に本学図書館が購入しました。

本学多摩図書館には、三木と同じく西田門下で、三木の跡を継いで本学教授を務めた戸坂潤(1900-45)の旧蔵書約1500冊も収められています。

牧野英二郎監修『和辻哲郎の書き込みを見よ! 和辻倫理学の今日的意義』
(法政大学図書館 2009年)



『カント全集』に挟まれていた和辻自筆メモ



三木清旧蔵書

野上記念法政大学能楽研究所

能楽といえば、日本を代表する伝統芸能。2001年には、日本の伝統芸能としては初めてユネスコの世界無形文化遺産に登録され、いまや日本ばかりではなく、人類が共有すべき「無形遺産の傑作」として注目を集めています。

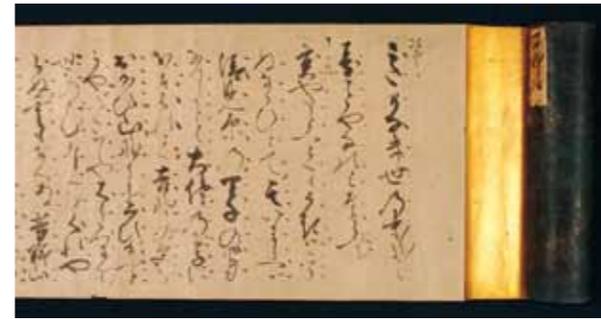
この能楽の研究で世界中に知られているのが、ボアソナードタワー 23階にある野上記念法政大学能楽研究所です。本学の元総長・野上豊一郎博士を記念して1952年に創設されたこの研究所は、能楽を専門とする研究機関として、長い歴史と実績を誇り、世界の能楽研究の一大拠点となっています。

ここには能楽の歴史を伝える数多くの貴重な資料が保管され、いまでもその整理と研究が続けられています。



新作能「草枕」

能楽研究所は能楽界と協力し、今は上演されなくなってしまう古い能の復活や、能の技法を用いたまったく新しい作品の上演などもおこなってきました。写真の「草枕」は、夏目漱石の小説や詩を素材にし、2002年に初演された新作能です。



金春禅鳳筆謡本

能のテキストを「謡本」といいます。能の文章（詞章）は、舞などの演技を伴わない「謡」という形式でも楽しまれていました。研究所には室町時代から現在までの謡本が、数多く所蔵されています。



『信長朱印状』

有名な「天下布武」の印がある織田信長の朱印状。観世彦右衛門という能役者に信長が領地を認める、という内容です。能は時の権力者の後援を受けて大きく発展しましたが、研究所には、そうした能の歴史に関わる資料も数多く所蔵されています。



『二曲三体人形図』

研究所には、能をどう演じるべきか、理論や実際上の注意を記した「伝書」類も数多く集められています。これは、能の大成者世阿弥が能の演技を絵入りで説明した伝書です。世阿弥時代の能の姿を教えてくれる貴重な資料です。



『風姿花伝』

世阿弥の最も代表的な著作で、「花」という言葉をキーワードに、能役者が心得るべき演技の心構えを記した理論書です。役者による演技論としては世界で最も古いものですが、実際の舞台経験に基づいた高度な内容は、今も高く評価されています。



私のキャンパス、ここがおすすめ!



法学部法律学科3年 名畑さゆり

私が通う市ヶ谷キャンパスは都心の中心に位置しています。市ヶ谷キャンパスのシンボルと言えば…そう、ボアソナードタワーです。高さはなんと約122メートル!! 最上階からは東京タワーや最近話題のスカイツリーも見ることができます。このボアソナードタワーで実際に授業を受けることもありますし、お昼休みなどに利用することのできる食堂もあります。私のおすすめはレインボーテラスのクレープです。安くて美味しい上に、学校にいながらおしゃれなカフェの気分も味わえますよ♡

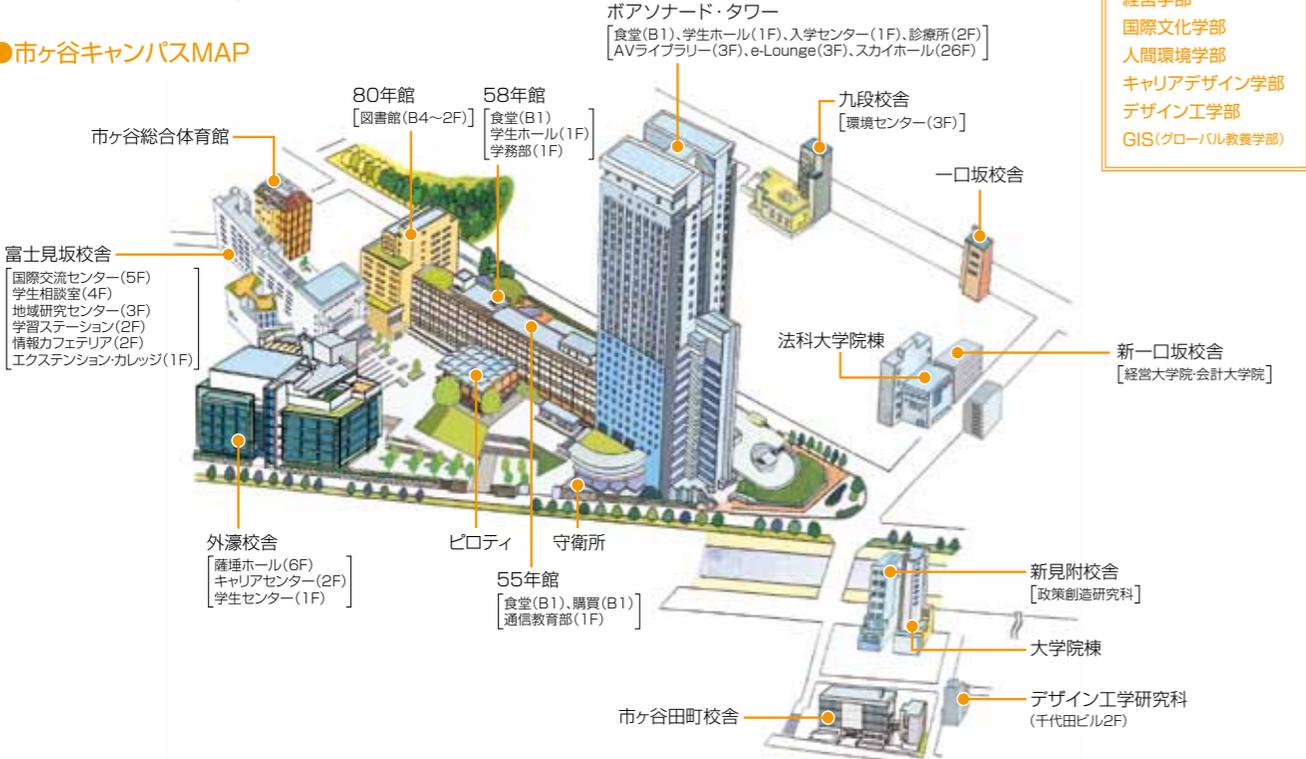


グローバル教養学部グローバル教養学科2年 川端 将太郎

市ヶ谷キャンパスは、都会感の中にも自然を感じられる場所です。行きかえりの駅までの道や、正門ちかくの花壇も自然と都会の調和を感じさせます。特におすすめなのは、富士見坂校舎の屋上や58年館から通じる大内山庭園です。僕は、時間がゆっくり流れるこれらの場所で、友達とランチをしたり、雑誌を読んだり、時には勉強したりします。狭いようで、広いキャンパス、探索してみると意外な発見が…!? 市ヶ谷キャンパスで、一緒に学生生活を楽しみましょう!

市ヶ谷キャンパス

●市ヶ谷キャンパスMAP





私のキャンパス、ここがおすすめ!

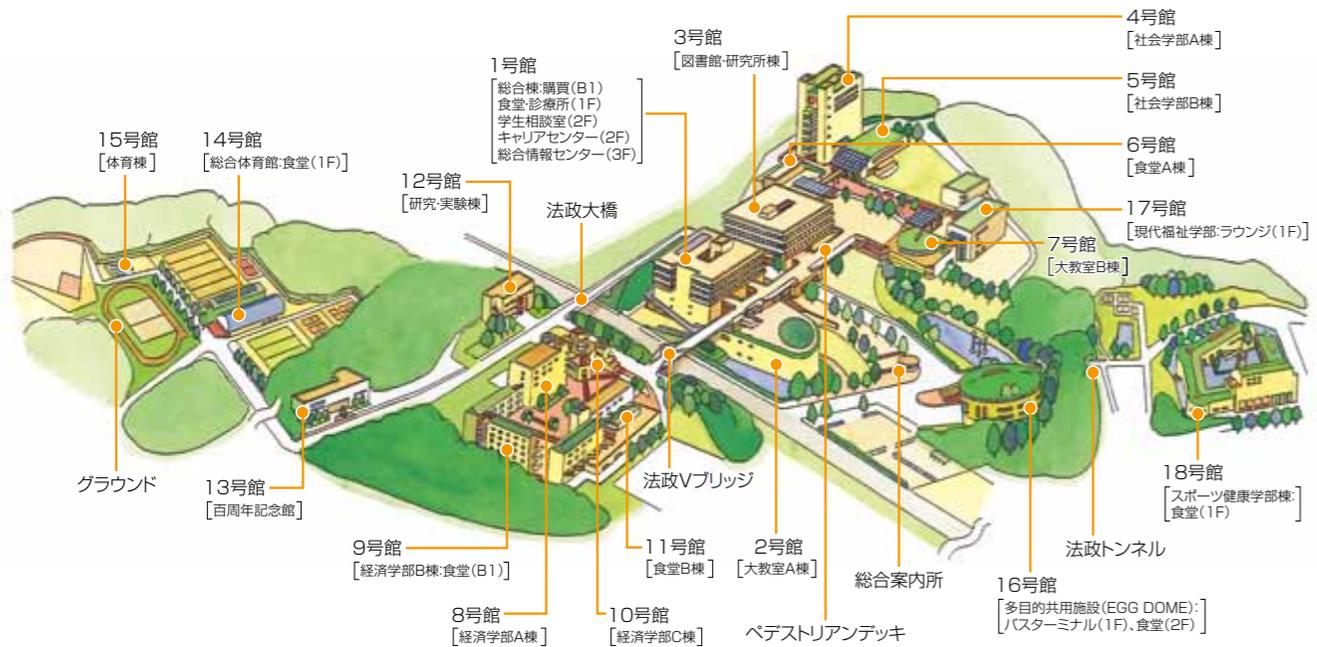


社会学部社会学科4年 ひばり野 茜

多摩キャンパスの良いところは何と言っても自然がいっぱいなところ。キャンパス内に草木の生い茂った散歩道があり、探検するわくわく感のあるキャンパスなんてめったにありません。都会のキャンパスでは感じることのできない自然とのふれあいができます。大学は人との出会う場所です。自然の多い多摩キャンパスで大学生活に活力を持たせてくれる人々との出会いがありますよ!

多摩キャンパス

●多摩キャンパスMAP



現代福祉学部現代福祉学科4年 室岡 康平

私一番のおすすめはキャンパスで「四季」が感じられることです。春には桜が満開になり、夏は空の青と葉の緑が映え、秋には紅葉を感じ、冬には雪もチラつく、まさに「日本」を感じるキャンパスだと言えます。私はこの素晴らしい環境のおかげで「一歩前に挑戦し続ける」、充実した学生生活が過ごせています。みなさんのちょっとした一歩を踏み出すことが、自分も想像してなかったような経験につながります。その時の自分に会いたいと思いませんか?



私のキャンパス、ここがおすすめ!



生命科学部環境応用化学科3年 松原 郁

私の通う小金井キャンパスは静かな町の中にあり、山口から上京してきた私にとって、ごちゃごちゃしておらず、とても過ごしやすい環境です。また、校舎は、2011年度から北館が新しく完成しました。貸与パソコンからどこでもインターネットを使うこともでき、とても快適です。

キャンパス内には二つの学食もあり、昼休みには友達と話して過ごすこともできます。

ほかにも図書館、メディアライブラリーなど、毎日の学校生活に役立つ施設もたくさんあります。ぜひ一度いらしてみてください!



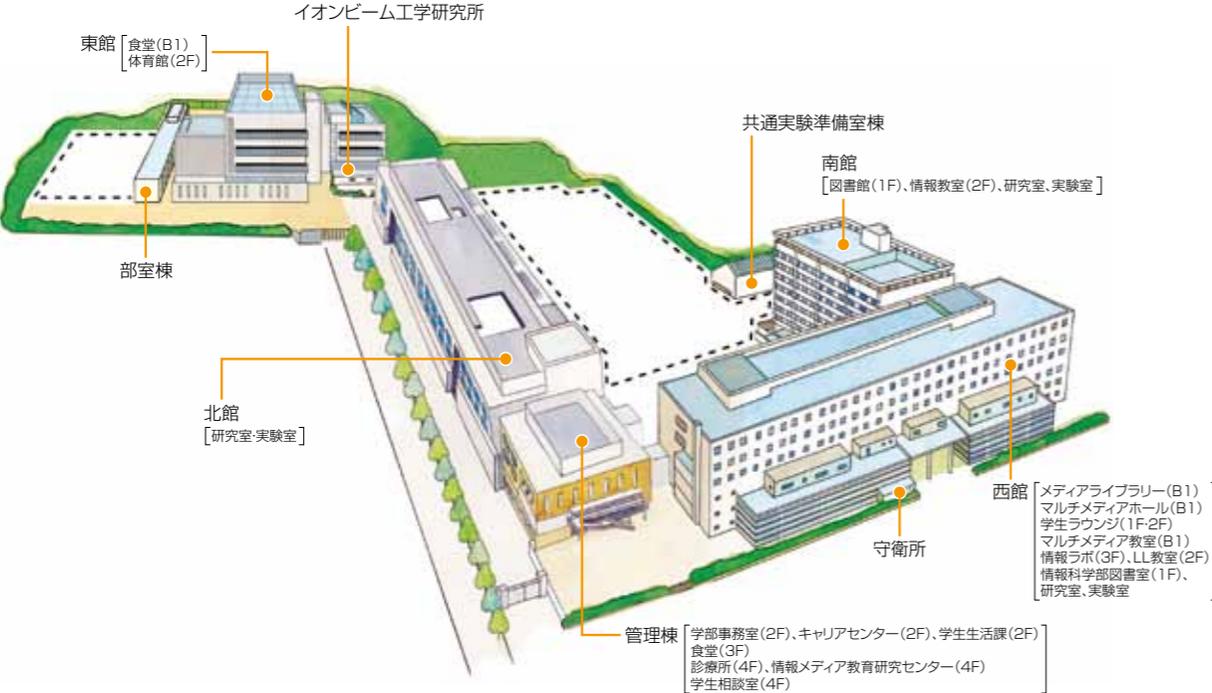
情報科学部デジタルメディア学科4年 泉 孝典

私の通っている小金井キャンパスは、住宅街の中にあり、キャンパスの周りとはとても静かで勉強する環境としては最高だと思います。さらに、近くには吉祥寺や電車に乗れば30分で新宿に行けたりしますので、学校終わりに遊びに行ったりすることができます。

また、キャンパスの西館には課題の内容や学生生活について上級生や先生に相談できるGBC (Glass Box office hour Center) という場所があり、自分の好きな時間に相談しに行けるのでお勧めです!

小金井キャンパス

●小金井キャンパスMAP



大学での「学び」とは

時間割をつくる

学習サポートの窓口
「学習ステーション」

市ヶ谷キャンパスでは、学生の学習活動のサポートを行うことを目的に、2011年4月に「学習ステーション」が開設されました。

4月には新生生のキャンパスライフをスタートするための様々な質問を受け付ける「新生サポート」を行っています。また、学生スタッフが自分たちの強みや得意分野を活かして作成したプログラムを中心に、他の学生の「学び」をサポートしています。

○場所：市ヶ谷キャンパス
富士見坂校舎2階

*開室時間など利用の詳細は、直接ステーションにお出でいただき確認してください。

大学では同じ時間に別々の教室で複数の科目の授業が行われています。では自分ほどの授業に出れば良いのでしょうか？ 皆さん一人ひとりが「自分の時間割をつくる」、そこから大学での学びがスタートします。高校までとは違って、皆さんは自分の学習計画を自分で組み立てるのです。時間割をつくることは皆さんの学びの方向性と卒業後の進路に直接かかわってくる大事な作業です。

(1) 授業の形態

ところで大学ではどんな授業をしているのでしょうか？ 大学での授業には、①講義、②実験・実習、③演習（ゼミ）と大きく分けて3種類の形態があります。

- 講義科目では、先生の講義を聞いてノートを取ることが授業参加の第一歩ですが、実は講義のスタイルは先生によって違いますし、板書のスタイルも十人十色。ノートの取り方が学びの基本技術です。総まとめは期末試験やレポートですね。
- 実験・実習科目ではグループでのテーマに沿った実験と結果の分析、コンピュータや作品制作のワークショップ、社会調査のフィールドワークなどがあります。課題に挑戦して、講義だけでは知りえないことを身につけます。
- 演習科目（ゼミとも言います）では、皆さんは研究室に属して指導教授の先生に助言をもらいながら、一学期全部あるいはもっと長い時間をかけて、問題意識を深めじっくりと研究します。一般には演習の成果がいわゆるゼミ論ですが、それが卒業研究、卒業論文（卒論）となる学部もあります。演習とは大学での学びの到達点ともいえるでしょう。

(2) シラバス

それぞれの科目の内容を詳しく知るために、皆さんは必ず学部が発行するシラバスに目を通してください。その科目の目的、学習の到達目標、授業計画と単元、成績評価の方針などが説明されています。シラバスには学部より配布される印刷物と授業支援システム上のWebシラバスがありますが、どちらも基本的には同じ情報です。適宜使い分けてください。

シラバスを読みこなすコツを身につけましょう。それには学部が配布する「履修の手引き」にもしっかりと目を通してください。皆さんが調べている科目が、学部カリキュラムのなかでどのような役割を担っているかが「コース」や「科目群」という形でまとめられています。

シラバスは学期中にも十分に活用してください。受講する科目の授業計画に親しんでおくと、予習・復習が効率的になり、自分の時間が作れるようになりますよ。

(3) 履修登録

自分にとって最良の履修計画は一人ひとりで違います。よく考えてどの科目を履修するかを決めてください。先生方や先輩、事務の窓口へアドバイスをもらうのも、大いに参考になるでしょう。でも最後は自分で判断して決めてください。皆さんの履修計画は皆さん自身のものですから。

学部学科によっては、多くの必修科目が指定されているところもあれば、そうでないところもあります。履修の手引きとシラバスを良く読んで、学部の教育方針や履修指針をきちんと理解することが大事です。

履修する科目を決めたら登録します。履修登録には手続きの期間がありますので、学部ガイダンスの内容や履修の手引きを十分に理解して、手続き漏れのないように十分に注意しましょう。履修登録をすませたら確認することもお忘れなく！

これは筆者自身の学生時代のちょっとした工夫なのですが、シラバスを小さくコピーして授業ノートの表紙ページに貼っておくと、毎回の授業の進捗と授業計画全体との関係がいつも良くわかるのでおおいに役に立ちました。

ちょっと待って！

「必修科目じゃないから、この科目は履修しなくても別に関係ないですよね？」

「選択科目はどの科目でも好きな順番に履修して構わないんじゃないですか？」

「今学期いちばん簡単そうな科目はどれかな？」

「アルバイトやサークルの時間を確保したいので、授業はできるだけ同じ曜日に集中して取ればいいんだよ」

注意事項
おやおや、こういう考え方でどこかおかしくないですか？皆さんの学部の履修モデルはどうなっているのかな？

履修や成績などにかかわる各種システムを利用しよう!

大学には履修や成績、Webシラバスなど、授業や履修にかかわる様々なシステムがあります。用途により、利用するシステムが異なりますので、注意が必要です。

📖 統合認証

詳しくは総合情報センター発行の利用ガイドもしくはnet2010ユーザー支援サイト (<http://net2010.hosei.ac.jp>) を参照してください。

(1) 情報システム ※統合認証によるログインが必要となります。

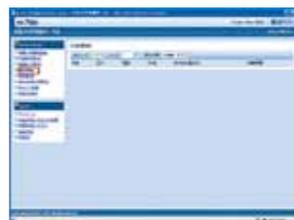
<https://www.hosei.ac.jp/as/student/>

情報システムは、Web履修登録システム、お知らせ配信サービスなど学部事務を中心として学生生活をサポートします。



Web版の主な機能

- 履修申請——履修登録ができます。
※履修とは、授業を受講することを指し、履修登録は全員が必ず行います。
- 授業・時間割照会——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- 休講・補講状況照会——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- 抽選授業履修申請——抽選対象科目の申請、及び結果の確認ができます。
- 単位修得状況照会——自分が修得した単位を確認することができます。
- キャリア就職——就職活動の補助ツールとして、企業検索などができます。
- 奨学金申請——奨学金の申請ができます。



携帯版の主な機能

- 時間割——履修登録手続き完了通知後、利用できます。
- 休講情報——全学の休講情報を確認することができます。
- お知らせ配信——全体宛、個人宛に配信されたお知らせを確認できます。
※掲示板の補助サービスとして、個々のメールアドレスに情報が配信される。
- メール配信設定——お知らせと休講情報のメール配信設定ができます。

📖 こんなところが便利!

お知らせ配信は、携帯電話に転送する設定が可能ですので、外出先でもお知らせを確認することができます。

(2) Webシラバス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/>

各授業の概要をWeb上で公開しています。授業の到達目標、テーマ、授業計画、テキスト・参考書、成績評価基準など、授業を選ぶ際の参考となる情報が閲覧できます。



📖 こんなところが便利!

- ・外出先など冊子シラバスが手元にない時でも授業の概要を知ることができます。
- ・条件による科目の検索が可能です。

(3) 授業支援システム

<https://hcms.hosei.ac.jp/>

授業を補助するツールとして授業支援システムを導入しています。これは、インターネットを使って教材の配布、レポートや小テストの実施などを行うシステムです。

なお、授業支援システムにも「授業自己登録」という機能がありますが、これは授業支援システムでの利用登録であって、正式な授業の履修登録ではありません。間違えないように注意してください。

このシステムは、担当教員により利用方法が異なります。

主な機能

- ①教材のダウンロード
- ②レポート提出
- ③掲示板

※利用にあたっては、授業支援システムWebガイドを参照してください。

<http://cmsguide.hosei.ac.jp/index.php?page=hcms-student>



📖 こんなところが便利!

- ・授業によって、授業の資料をアップロードしてくれる先生がいるので、資料をダウンロードができ、便利です。(このシステムを利用するかどうか、どの機能をどのように利用するかは担当教員により異なります)

ノートの取り方

前節「時間割をつくる」で説明しましたが、講義授業ではきちんとしたノートを取ることが学びの基本技術です。良いノートは理解を助け、皆さんの学びの質を高めてくれるでしょう。ではどのようなことに注意すれば良いノートが取れるようになるのでしょうか？

(1) 大学の授業は何が違うのか

まず、大学の授業が高校の授業とどこが違うのかを考えてみましょう。よく言われることですが、高校までの授業は教科書に沿って進められ、毎回の授業内容は細かく決まっています。板書の内容も丁寧でくわしいですね。ノートは板書内容を書き写すことが基本です。

これに対して大学での授業は、先生方の個性豊かなスタイルで進められます。そして一般には板書をするよりも皆さんに語りかける比重の方がずっと大きいのです。授業とはもはや知識を伝授するだけの場ではなく、むしろ皆さんの問題意識を掘り起こし議論を仕掛けるような、知的な訓練の場になります。そして何よりも大学で扱う授業のレベルは高校の授業のレベルより高いのですから、皆さんが知らない学説や耳慣れない学術用語がポンポン飛び出してくるでしょう。いかがでしょう？ ノートを取ることの大切さがおわかりいただけただけでしょうか。

(2) いくつかのヒント

ではどうすればよいのか？ 実は普段の生活の中にヒントがあるのです。わたしたちは大事な話を聞きもらすまいとしてメモを取ることがありますね。その時には自然と話の要点だけを書き留める努力をするのではないのでしょうか。耳では一生けんめいに相手の話を聞いて理解に努めながら、同時に手は大事なポイントを書き留める作業をやってい

ます。そして理解できなかったことや、本当に大事なことはあとで確認しますね。良いノートを取るコツも実はまったく同じなのです。

したがって良いノートというのは

- ・講義内容の要点がまとめられているノート
- ・要チェック項目がきちんと書き留められているノート
- ・あとで復習するときに講義内容が思い出せるノート

ということになります。

以上の3点を押さえてさえいれば、ノートの取り方は各自でやりやすい方法を工夫すれば良いのです。もっと大事なことは、その日のうちにノートを見直して講義内容を自分なりに整理することなのですね。でもそれだけでは「何をどこから始めてよいかかわからない」という人のために、次のページの図のような方式をご紹介します。

- ・まず紙面を3つに分けます。ノートの左端と下端からそれぞれ5～6センチのところの線を描きます。線のかわりに紙面を軽く折っても良いでしょう。
- ・授業中にノートを取る時には、まず①の部分に書き込むようにします。あとで整理するために、最初は②③の部分は使わないでおきます。
- ・授業が終わったらすぐにまとめます。①の内容をあらわすキーワードや短い字句を考えて②の部分に書き込みます。同時に疑問点や要チェック事項を書き出しておくが良いでしょう。
- ・最後に講義内容を一行程度の短い文にまとめて③に書き出します。上手に整理されたノートで効率よく復習すれば、レポートや期末試験もばっちりですね。

いかがでしょうか？ 板書を丸写しするスタイルを卒業して、要点をまとめ疑問点を洗い出すノートの取り方を、皆さんも工夫してみましょう。

- ノート紙面を3つに分けます
- ▼
- 授業中は①の部分だけを使ってノートを取ります
- ▼
- 授業終了後は、できるだけすぐにキーワードを②に書き出してまとめます
- ▼
- 次の授業までに必ず講義内容の要約を③に書き出しておきましょう
- 聞きとれなかった用語や要チェック項目を調べるなど①をもう一度見直します



【コラム】

受講のマナー

ヨーロッパの劇場でオペラを見ていたときのことです。序曲の演奏が始まった劇場に、何人かの旅行客が入って来ました。美しい劇場に感激したのか、何やらおしゃべりをしながら自分たちの席を探しています。よく聞くと——なんと日本語ではありませんか。同じ日本人として思わず赤面してしまいました。

皆さんはこんな場面に出会ったらどう感じるでしょうか。

映画館や劇場の中で、上演中に歩き回ったり、おしゃべりをしたりするのはとても迷惑ですよね。ところが不思議なことに、学校での授業となると、こうしたことを平気でする人がいます。

大学が毎年行なっている授業改善アンケートでも、多くの学生から「授業中に周囲のおしゃべりがうるさくて勉強にならない」、「平気で遅刻や早退をする人がいる」といった不満の声が上がっています。

教室の中では学びたいという学生の権利が何よりも優先されます。他の学生の権利を侵害しないよう、大学人としてのマナーを守りましょう。

受講マナーのチェック・ポイント

- 授業中の私語は他の学生の学ぶ権利を侵害します。絶対にやめましょう。
- 遅刻や中途退出も他の学生の迷惑になります。
- 携帯電話の呼び出し音や振動音が鳴らないよう、授業前に電源は切りましょう。
- 授業中の飲食もマナー違反です。

演習（ゼミ）

①研究テーマを見つける

②先行研究を調べる

③プレゼンテーション

④ディスカッション

演習とは、知の消費者から生産者になるための転換学習の場です。プレゼンテーションやディスカッションを通じて、新たな知を生み出す方法を学んでいきます。

(1) 研究テーマを見つけよう

大学とは、知の生産者を育てる場です。では、どうすれば新たな「知」を生み出すことができるのでしょうか。

知の生産者を代表するのが科学者と呼ばれる人々ですが、この“科学者とはどのような人間か”について、宇宙物理学者である池内了博士はこう書かれています。

「科学者は、何もかもわかっている人間なのではなく、現在、何がわかっていて、何がわかっていないかを最もわかっている人間なのです。」（『科学の考え方・学び方』岩波書店、1996年）

すでに明らかになっていることを、一から研究しても意味がありません。未解明のテーマを見つけ、それを解明する方法を考えることが研究の第一歩となります。

(2) 先行研究を調べよう

では、どうすれば未解明のテーマを見つけ、新たな知を生み出すことができるのでしょうか。

ここで一つクイズを出してみましょう。世界一高いピラミッドを作るには、どうすればよいのでしょうか？

これから建築や土木を学ぼうとしている人もいるでしょうが、あまり真剣に考えないでください。答えは簡単です。まずは世界一高いピラミッドの頂上に登り、そこに小石を一個置くのです。これで世界一高いピラミッドの完成です。

大学での研究もこれに似たところがあります。まずは先人が積み上げた研究成果——これを先行研究といいます——を学び、その上に新たな成果を重ねることが必要です。もちろん先行研究をただ鵜呑みにしたのでは、新たな研究テーマは見つかりません。先人の研究成果に敬意を払いながらも、「本当にそうなのだろうか」という批判的思考（critical thinking）を持つことが大切です。ときには先人が積み上げたピラミッドとはまったく別に、新しいピラミッドを基礎から作り直すこともあるでしょう。これを米の科学史家T・クーン（Thomas Samuel Kuhn 1922-1996）は、「科学革命 scientific revolution」あるいは「パラダイム・シフト paradigm shift」と呼んでいます。研究もここまでいけばノーベル賞ものです。

📖 Thomas Samuel Kuhn: The Structure of Scientific Revolutions, University of Chicago Press, 1962（邦訳：中山茂訳『科学革命の構造』みすず書房 1971年）



(3) プレゼンテーション

プレゼンテーションは、論文やレポートと同じく、人に研究成果を伝えることを目的としています。しかし、その方法は大きく異なります。まずはプレゼンテーションの長所と短所を整理しておきましょう。

【長所】

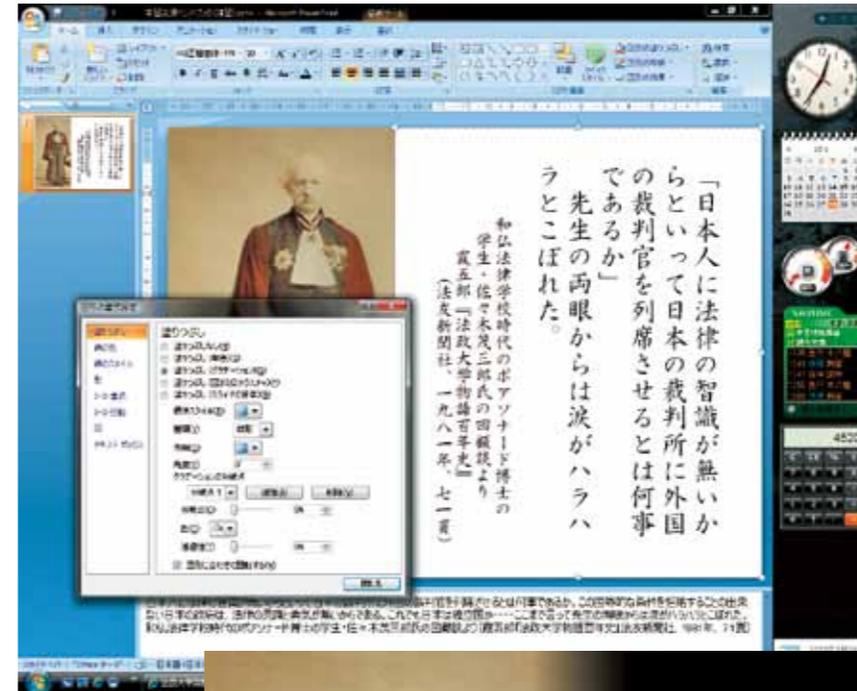
- ①文字や図版だけでなく、音声や動画などさまざまなメディアが使える
- ②聞き手の反応を見ながら、発表のしかたを工夫することができる

【短所】

- ①決められた時間内に発表を終わらせなければならない
- ②文章のように読み返しができないため、時間軸に沿った情報提供となる

長所①を生かすためにマスターしたいのが、プレゼンテーション・ツールの使い方です。Microsoft社のPowerPoint®やGoogle™ドキュメントなどがよく使われていますが、こうしたツールを使いこなすことで、文字や図版、音声や動画などをシームレスに組み合わせたプレゼンテーションを行なうことができます。右ページの図は、PowerPoint®によって写真と文字を組み合わせたスライドです。必要に応じてこれに音声を加えたり、動画を挿入したりすることもできます。

一方、聞き手から見た場合、短所②に挙げたように、プレゼンテーションは時間軸に沿ったシーケンシャル（sequential）な情報提供となり、文章のようなランダム（random）な情報検索——わからないところを読み返したり、不要なところは読み飛ばしたりすること——はできません。このためスライドだけではなく、要点や資料をまとめたプリントなども同時に配布するとよいでしょう。



PowerPoint®によって写真と文字を組み合わせたスライド

スライド作成のチェックポイント

- プレゼンテーションには通常時間制限が設けられています。発表が時間内に終わるようにスライドの枚数を調整するとともに、本番前には必ず予行演習をするようにしましょう。
- スライドの文字が見にくいと、プレゼンテーションの効果が半減してしまいます。一番後ろの席からもスライドの文字が見えるように、フォントの大きさや色に注意しましょう。
- 文献やデータを引用するときには、論文やレポートの場合と同じく、必ず出典を明記しましょう。
- 音声や動画はスライドのファイルの中には取り込まれない場合があります。音声や動画を使うときは、それらのファイルもスライドのファイルといっしょに持ち運ぶようにしましょう。

📖 Karl Raimund Popper: The Logic of Scientific Discovery (translation of Logik der Forschung 1935). Hutchinson, London, 1959 (邦訳: 大内義一、森博訳『科学的発見の論理』上、下 (恒星社厚生閣1971、72年)

ディスカッションのチェックポイント

- ☑️ ディスカッションは、演習の参加者全員が意見や質問を述べる権利と義務を有しています。他の人の意見にしっかり耳を傾け、議論に参加するようにしましょう。
- ☑️ 意見を述べるときは「反証可能性」を保証し、論拠となる資料やデータを用意して、生産的な議論になるよう心がけましょう。

(4) ディスカッション

プレゼンテーションと並んで、演習のもう一つの柱となるのがディスカッションです。ディスカッションの目的は、他の人の考え方や感じ方を知るとともに、議論の中で論理の矛盾や論証の不足などを指摘しあい、研究の質を高めることにあります。ときには人からよいアイデアをもらうことで、研究が飛躍的に発展することもあります。

演習でのディスカッションで大切なことは、論拠を明確にし、正しいことは正しい、間違っていることは間違っていると、他の人が判断できるような議論をすることにあります。これをオーストリア出身の哲学者カール・ポパー (Karl Raimund Popper 1902-94) は「反証可能性 (falsifiability)」と呼んでいます。

たとえば、「最近、外国人による犯罪が多い」というのは、ディスカッションの議論ではありません。なぜなら「多い」と感じるかどうかは個人的な感覚に過ぎないからです。一方、これを「最近、外国人による犯罪が増加している」といえば、反証が可能となり、議論が成立します。演習の中に犯罪統計に詳しい人がいれば、きつこう反論するでしょう。「あなたの意見は間違っています。平成22年度の『犯罪白書』によれば、外国人による一般刑法犯の検挙件数は、平成17年度の43,622件をピークとしてその後は減少に転じており、平成21年には30,569件と30%も減少しています。」

こうしたルールを守って議論することで、ディスカッションはより生産的なものとなるはずですよ。



レポートを書く

- ①テーマの絞り込み
- ▼
- ②先行研究・データの収集
- ▼
- ③構成の組み立て
- ▼
- ④執筆
- ▼
- ⑤文章の推敲・最終チェック
- ▼
- ⑥提出

どのようにして収集するかについては、42～53ページで詳しく説明します。

大学においては、「講義を聴く」という受け身の姿勢だけでは、本当の意味で学んだことになりません。「自分で学び、考える」という能動的な学習をすることが大切です。

そのため、大学では学生にレポートを課することがしばしばあり、それが成績評価の対象となります。授業の種類等によってどのようなものが求められるかが異なりますが、基本的にレポートとは、「これまでの研究成果を参考にしながら、客観的事実やデータを分析し、自分の考察を述べるもの」です。レポートは、高校生までに書いてきた作文や感想文とは全く違うものですので、注意が必要です。

提出締切日までに、与えられたレポート課題の意図するところをよく考え、テーマにふさわしいデータ・資料を集め、分析し、執筆を進めなければいけません。ここでは、レポート提出までのおおよその手順について見ていきましょう。

①与えられたレポートの課題をよく理解し、さらにテーマを絞り込む

与えられるレポート課題は抽象的であったり、漠然としたものであったりします。課題をもとに、どのような問題が重要かをよく考え、自分の主張したいことを絞り込む必要があります。

②図書館やインターネットで、先行研究等を収集する

テーマが決まったら、図書館やインターネットを利用して、先行研究等を収集します。これまでにどのような研究が行われているのかを確認するとともに、自分のレポートにとって必要なデータなどを集めましょう。

③集めた情報を整理し、レポートの構成（章立て・節立て）を考える

自分のレポートに必要な情報を吟味しながら、レポートの骨組みを考えていきます。レポート・論文の場合、以下の「三部構成」が構成としてふさわしいものといえます。

- 〈序論〉このレポートが、何を明らかにするものであるかを提示します
- 〈本論〉客観的な根拠をあげて、それに基づき、自分の主張を述べます
- 〈結論〉全体のまとめを行います

④アウトラインに基づき、執筆を進める

実際にレポートを書いてみます。文章にしていけることにより、自分の考えが明確になると、意見を主張するためにどのような根拠が必要かが改めて見えてきます。上記①②③を見直し、修正していきながら書き進めていきましょう。

⑤文章の推敲を行ったり、指定された要項に合っているかどうか確認する

一度書き上がったら、冷静に読み返してみて、自分の考えが適切な根拠に基づき、わかりやすく説明できているかどうか確認します。

⑥指示された方法で、締切までにレポートを提出する

いくら優れた内容でも、指示された方法で締切日までに提出しなければ、評価されません。どこに、どのように提出するか、また、締切日・時間をよく確認しておくことが大切です。

レポートや論文の書き方については、多くの図書が出版されており、それらは図書館にも所蔵されています。また、図書館の公式サイトでも関連事項を掲載しています。そうしたものを参考にし、優れたレポートが書けるよう努力しましょう。

レポート提出前のチェックポイント

- 論理的な構成になっていますか。矛盾はありませんか。
- レポートにふさわしい言葉遣いをしていますか。
- 文体は「だ」「である」調で統一されていますか。
- 参考文献の内容と自分の主張は、はっきり区別できていますか。出典の掲載の仕方は適切ですか。
- 指定された用紙、分量、書式になっていますか。

レポート書式の例

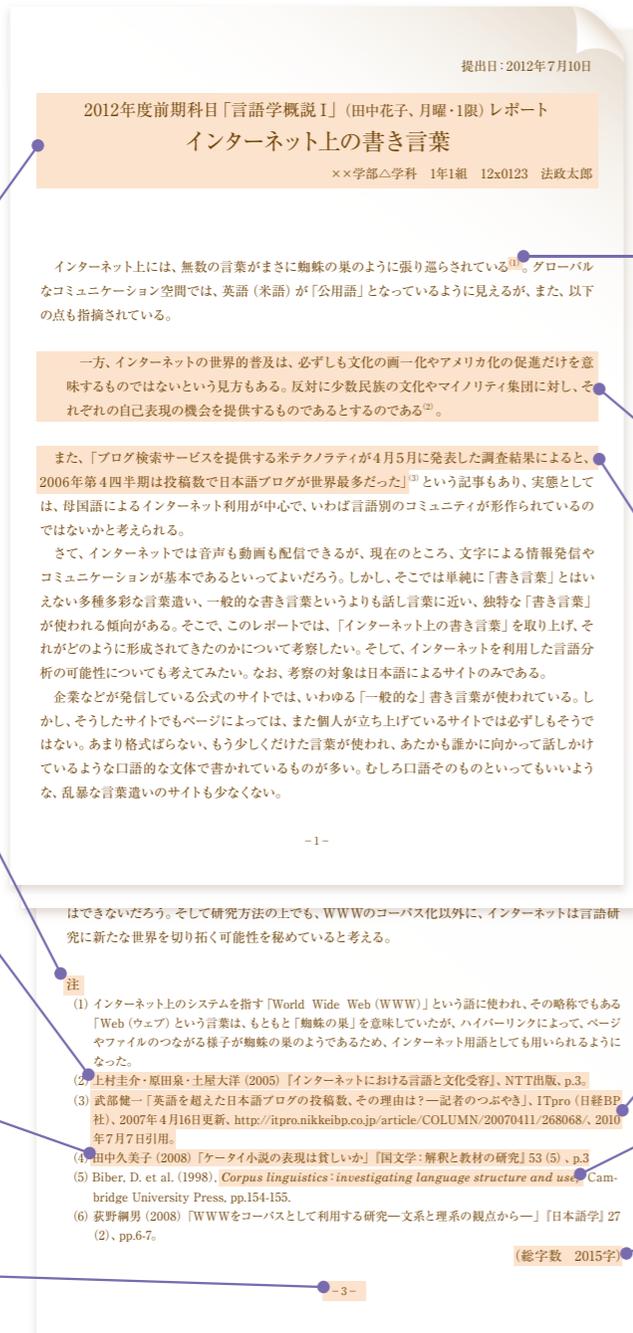
はじめに、科目、教員名、開講曜日・時限、レポートのテーマ、自分の学部(学科)・学年・クラス・学生証番号・名前を必ず書くこと。1枚目は表紙にして、そこに記載するよう指示する教員もいます。そのほか、所定の表紙や用紙が指定される場合もあるので、レポート要項をよく確認しましょう。

「注」は補足説明のみとし、別に「引用文献」や「参考文献」の項目を立て、そこに出典をまとめる方法もあります。

単行本から引用した場合は、編著者名、発行年(月)、書名、出版社名、引用ページを記します。

雑誌論文を引用した場合は、著者名、発行年(月)、論文名、雑誌名(発行所名)、巻号、引用ページを記します。

複数ページにわたる場合は、ページ番号をつけましょう。



提出日:2012年7月10日
2012年度前期科目「言語学概説I」(田中花子、月曜・1限) レポート
インターネット上の書き言葉
××学部△学科 1年1組 12x0123 法政太郎

インターネット上には、無数の言葉がまさに蜘蛛の巣のように張り巡らされている⁽¹⁾。グローバルなコミュニケーション空間では、英語(米語)が「公用語」となっているように見えるが、また、以下の点も指摘されている。

一方、インターネットの世界的普及は、必ずしも文化の画一化やアメリカ化の促進だけを意味するものではないという見方もある。反対に少数民族の文化やマイノリティ集団に対し、それぞれの自己表現の機会を提供するものであるとするのである⁽²⁾。

また、「ブログ検索サービスを提供する米テクノロジーが4月5日に発表した調査結果によると、2006年第4四半期は投稿数で日本語ブログが世界最多だった⁽³⁾」という記事もあり、実態としては、母国語によるインターネット利用が中心で、いわば言語別のコミュニティが形作られているのではないかと考えられる。

さて、インターネットでは音声も動画も配信できるが、現在のところ、文字による情報発信やコミュニケーションが基本であるといえるだろう。しかし、そこでは単純に「書き言葉」とはいえない多様な言葉遣い、一般的な書き言葉というよりも話し言葉に近い、独特な「書き言葉」が使われる傾向がある。そこで、このレポートでは、「インターネット上の書き言葉」を取り上げ、それがどのように形成されてきたのかについて考察したい。そして、インターネットを利用した言語分析の可能性についても考えてみたい。なお、考察の対象は日本語によるサイトのみである。

企業などが発信している公式のサイトでは、いわゆる「一般的な」書き言葉が使われている。しかし、そうしたサイトでもページによっては、また個人が立ち上げているサイトでは必ずしもそうではない。あまり格式ばらない、もう少しだけ言葉が使われ、あたかも誰かに向かって話しているような口語的な文体で書かれているものが多い。むしろ口語そのものといってもいいような、乱暴な言葉遣いのサイトも少なくない。

はできないだろう。そして研究方法の上でも、WWWのコーパス化以外に、インターネットは言語研究に新たな世界を切り拓く可能性を秘めていると考える。

- 注
- (1) インターネット上のシステムを指す「World Wide Web (WWW)」という語に使われ、その略称でもある「Web (ウェブ)」という言葉は、もともと「蜘蛛の巣」を意味していたが、ハイパーリンクによって、ページやファイルのつながる様子が蜘蛛の巣のようであるため、インターネット用語としても用いられるようになった。
 - (2) 上村圭介・原田泉・土屋大洋 (2005) 「インターネットにおける言語と文化受容」、NTT出版、p.3。
 - (3) 武部健一「英語を超えた日本語ブログの投稿数、その理由は?—記者のつぶやき」、ITpro (日経BP社)、2007年4月16日更新、<http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070411/268068/>、2010年7月7日引用。
 - (4) 田中久美子 (2008) 「ケータイ小説の表現は美しいか」『国文学: 解釈と教材の研究』53 (5)、p.3
 - (5) Biber, D. et al. (1998), *Corpus linguistics: investigating language structure and use*, Cambridge University Press, pp.154-155.
 - (6) 荻野綱男 (2008) 「WWWをコーパスとして利用する研究—文系と理系の観点から—」『日本語学』27 (2)、pp.6-7.

(総字数 2015字)

注番号を付け、その箇所に関する補足説明や引用の出典を各ページの下に(脚注)、またはレポートの最後に(後注)まとめて記します。

2文以上の長い引用は、上下を1行ずつ空け、左から2字下げで記します。

短い引用は、カギカッコでどこからどこまで引用であるかを明確に示し、文中に入れます。

サイトから引用した場合は、著者名、ページタイトル、サイト名、最終更新日、URL、引用した日付を記します。

洋書の場合、書名はイタリックで書きます。

字数指定がある場合、総字数を書いておきましょう。

【コラム】

ひょうせつ

剽窃 (plagiarism) とは

提出されるレポートの中には、残念ながら、参考資料をただ丸写ししたものやインターネットで見つけたサイトをコピー＆ペーストしただけのものも見受けられます。こうした行為は「剽窃行為 (plagiarism)」といい、絶対にしてはならないことです。

他人の説をあたかも自分の説であるかのように述べるのは、学問の世界では許されざる行為であり、著作権法上の問題も生じます。自分の主張と参考にした文献からの引用は明確に分けて表記し、引用部分については何から引用したのかを明示しなければいけません。その示し方は、学問分野や書式(縦書きや横書きか、また和文か欧文か等)によって異なりますので、自分のレポートにあった形で適切に記す必要があります。レポート執筆の際、参考にした論文等ではどのように文献の引用をしているのか、またどのようにその出典を明示しているかを確認して、内容だけではなく、その書式も学び、自分のレポートに活かしましょう。

※剽窃・カンニング等の不正行為を行った学生に対し、大学は厳正な措置を講じています。



信頼できる情報を集める

～図書館で・インターネットで～

大学ではプレゼンテーションをしたり、レポートを作成する機会が増えます。また、学部によっては卒業論文やゼミ論文の提出を課しています。

質の高いプレゼンテーション・レポート・論文のためには、自分の取り組むテーマに関する先行研究や自分の考えの論拠となる資料やデータについて情報をつかむことが必要ですが、その際、信頼のおける情報をどれだけの確に集められるかが重要になってきます。

プレゼンテーションやレポートに必要な文献などの情報を収集するには、

- 図書館を利用する
- インターネットを利用する

といった手段がありますが、自分の欲しい情報を集めるのは意外と難しいものです。

例えば、図書館にはとても多くの資料が所蔵されていますが、その量があまりにも膨大で、読まなければいけない本がどこにあるのか、さっぱり見当もつかないということもあるかもしれません。また、検索エンジンを使って、インターネットから情報を得る場合も、その検索結果から、学術的に信用できるものを選別するのは大変な作業になります。

では、いったいどのようにすれば、自分が必要とする情報にたどり着けるのでしょうか。このハンドブックでは、以上の2つの方法を中心に、情報収集のためのちょっとしたコツを紹介していきたいと思います。

レファレンスカウンターの人と親しくなろう！

レファレンスカウンターとは、図書館の「相談窓口」です。図書館員の人たちは、図書館利用・資料検索のプロ。図書館を効率よく利用し、欲しい情報を探し出す方法を、親切かつ的確にアドバイスしてくれます。図書館を利用して困った時には、気軽に質問したり、相談したりしてみましょう。（でも、レポートの答えまでは教えてくれませんよ!）

〈市ヶ谷図書館〉80年館地下1階

〈多摩図書館〉3号館1階

〈小金井図書館〉南館1階



大学の図書館を使いこなそう！

図書館利用のチェックポイント

☑ あなたの読みたい本は、図書館にありますか？法政大学図書館に必要な本があるか、その本が貸出中でないかどうかは、インターネットを使って自宅からも調べることができます。詳しくは次ページの解説を読んでください。

☑ 返却期限の過ぎた本はありませんか？学生への館外貸出は10冊まで、期間は2週間（雑誌は1週間）です。延滞中の本がある場合は、貸出はできません。

☑ 図書館は開いていますか？休館日や開館時間については、法政大学図書館公式サイトの中の「開館日程」を参照してください。

☑ 学生証を携帯していますか？図書館に入るには、学生証をゲートに通すことになっています。本の貸出にも学生証が必要です。

大学で充実した学生生活、研究生活を送れるか否かは、「知の集積」である図書館と上手につきあえるかどうかにかかっているといっても過言ではありません。図書館を使いこなすには、その雰囲気になれることが一番の近道です。とにかくまずは図書館に行ってみましょう。

法政大学図書館は、〈市ヶ谷図書館〉〈多摩図書館〉〈小金井図書館〉と、各キャンパスに一館ずつあります。

- 〈市ヶ谷図書館〉 80年館地下4階～2階、
富士見坂校舎1階（ラーニング・commons）・田町校舎5階（閲覧室）
- 〈多摩図書館〉 3号館地下2階～4階
- 〈小金井図書館〉 南館地下1階・1階・3階、西館地下1階（メディアライブラリー）

図書館は開架、閉架書庫の部分に分かれており、開架にはやや一般向けの資料、閉架にはより専門的な内容を持つ資料が置かれています。いずれも直接書架に行き利用することができますが、閉架書庫の資料や貴重書を利用する時は、各図書館カウンターで利用方法を確認して下さい。

【法政大学図書館公式サイト】
<http://www.hosei.ac.jp/library/>

(1) 自分に必要な資料が決まっている場合

教員から与えられた課題によっては、参考資料が指定されていることがあります。そんな時には^{オーバック}OPACを使って、その資料が大学の図書館にあるかどうか探してみましょう。

- [法政大学図書館OPACで検索する](#)

【法政大学図書館OPAC】

OPAC <http://opac.lib.hosei.ac.jp/> (パソコン)

Mobile-OPAC <http://m.lib.hosei.ac.jp/m/> (携帯電話)



法政大学図書館オンライン目録OPACは、資料探しの必須ツールです。各図書館のOPACコーナーで利用できる他、自宅のパソコンや携帯電話からでも、上記のURLにアクセスして利用することができます。

検索結果には、書名、所蔵館、請求記号、配架場所等のほか、資料によっては目次・あらすじも表示されます。検索結果をプリントアウトしたり、メモをとったりして、必要な情報を手に入れたら、資料の配架場所に向かい、必要に応じて閲覧室で読んだり、館外に借り出したりしましょう。

OPACには資料検索の他、以下の機能があります。

- [資料の予約](#) …… 利用したい資料が貸出中の場合、次の利用を予約できます。
- [資料の取寄せ](#) …… 利用したい資料が他キャンパスの図書館にある場合、自分の希望する図書館で受け取ることができます。ただし、大学紀要や新刊雑誌等は、カウンターで取り寄せを申し込んでください。
- [貸出予約照会](#) …… 現在借りている資料や返却期限等が確認できます。
- [貸出期間の延長](#) …… 資料の貸出期間の延長ができます（図書のみ3回まで）。

OPACでは、書名検索のほか、キーワード検索、著者検索、出版者検索ができます。これらを使えば、本の正確な題名がわからなくても検索が可能です。

資料によっては図書館ではなく、研究所や学部資料室に所蔵されているものもあります。その時は、図書館のカウンターで利用方法をたずねてください。

・書架に直接行く

自分に必要な資料の題名等が具体的にはっきりしていない場合でも、その分野がおよそ決まっていれば、直接書架に行き探すという方法もあります。

図書館の資料はその内容によって、日本十進分類法（NDC）で分類されています（一部の資料は法政大学図書館分類法によります）。自分の知りたい分野が配置されている書架に行き、実際に資料を確認しながら探してみましょう。関連した資料はまとめて配置されていますので、比較的、網羅した形で資料を手に入れることができます。

【参考】日本十進分類法（抜粋）

000	総記	500	技術
100	哲学	600	産業
200	歴史	700	芸術
300	社会科学	800	言語
400	自然科学	900	文学

(2) 自分の必要とする資料が具体的にわからない場合

ゼミのプレゼンテーションや卒業論文の場合、またレポートによっては、テーマを自分で設定したり、参考資料が指定されていないために、読まなければいけない資料は何かということから自分で考えないといけなかつたりします。

そんな時も、まず図書館の「参考図書コーナー」に行ってみましょう。参考図書（レファレンスブック）とは「調べ物をするための資料」です。ここには、基本的な知識・情報を得るための図書（辞典・事典やガイドブック等）や資料を探すための図書（索引等）が置かれています。

こうした参考図書から基本的な知識を得て、どのような方針で調べるか見通しを立ててみましょう。テーマに関わるようなキーワードが見つけれたら、OPACで検索して、自分に必要な図書を探し出すことができます。

参考図書は、館外貸出はできません。図書館の中で利用してください。

各図書館の参考図書コーナー（以下の他、閉架書庫にも配架されています）

〈市ヶ谷図書館〉80年館地下1階

〈多摩図書館〉3号館1階

〈小金井図書館〉南館1階



インターネットで文献を探してみよう!

情報を収集するのにインターネットはとても便利な手段ですが、誤った情報も少なくなく、プレゼンテーションやレポートに有益なものばかりとは限りません。情報の信頼性を判断するには、実は、よほど勉強しなければ不可能なのです。

しかし、せっかくの便利な手段を利用しない手はありません。こんな時も法政大学図書館公式サイトにアクセスしてみましょう! オンラインデータベースのコーナーがあり、学習に役立つ情報がたくさん詰まっています。

ここではその中のいくつかを紹介してみましょう。具体的な検索の方法については図書館員にたずねたり、ガイダンスに参加して確認して下さい。自分の研究のために、ぜひ積極的に利用しましょう!

【自宅から法政大学図書館のオンラインデータベースを利用するには】

オンラインデータベースの中で「自宅利用不可」の表示のあるもの以外は、大学内だけでなく、自宅のパソコン等、キャンパス外でも利用できますが、その際、VPN接続をする必要があります。VPN接続サービスには、IPsec-VPNとSSL-VPN（クライアントレス）、SSL-VPN（AnyConnect）の3種類があります。

SSL-VPN（クライアントレス）経由で利用する場合は、以下のURLに接続し、ユーザーIDとパスワードを入力してください。

<https://vpn.hosei.ac.jp/>

認証が成功したら、[図書館]のアイコンをクリックしてください。

データベースによってはSSL-VPN（AnyConnect）やIPsec-VPNでないと利用できないものもあります。どちらも専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは総合情報センター発行の利用ガイドもしくはnet2010ユーザー支援サイト (<https://net2010.hosei.ac.jp>) を参照してください。

法政大学図書館では、例えば以下のようなサービスを行い、学生の皆さんの学習支援をしています。

- (1) 図書館ガイダンスの開催
- (2) 図書館公式サイトでの情報提供
- (3) パスファインダーの発行
- (4) ゼミサポート制
- (5) 大学院生（学習アドバイザー）による学習相談

これらの他、さまざまなイベントや企画を行っていますので、積極的に利用しましょう。詳しくは、公式サイトや掲示を見て下さい。

(1) オンラインで辞書や事典を引く

図書館公式サイト → オンラインデータベース一覧 → 辞書・辞典・年表

「日本大百科全書」「日本国語大辞典」「現代用語の基礎知識」などの百科事典、辞書、ニュース、学術サイト、会社四季報など約40種にも及ぶコンテンツが利用できるJapan Knowledge+や、ブリタニカ国際大百科事典の日本語版、英語版、中国語版、韓国語版、スペイン語版、フランス語版が利用できるEncyclopaedia Britannica Online Japanがあります。

(2) オンラインで過去の新聞記事を読む

図書館公式サイト → オンラインデータベース一覧 → 新聞

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、日経四紙など国内主要紙の記事検索データベースのほか、英London Times紙の1785年の創刊から1985年まで200年間の全紙面を検索・閲覧できるTHE TIMES Digital Archive 1785-1985、米New York Times紙の1851年の創刊から最新号までを検索・閲覧できるデータベースがあります。



2009年9月、本学では最高齢となる79歳で、みごと工学博士号を取得した鈴木隆司さん。図は、その偉業を伝える記事を朝日新聞記事データベース「聞蔵II」で検索したところ

(3) 法政大学以外の図書館の蔵書検索

図書館公式サイト → オンラインデータベース一覧 → 資料目録 (図書・雑誌)

法政大学図書館OPACでは本学の図書館には所蔵されている図書しか検索できません。過去に出版された図書や本学以外の図書館の蔵書は、下記のデータベースで調べることができます。

- **NDL-OPAC (国立国会図書館蔵書検索・申込システム)**

国会図書館が所蔵する文献を検索することができます。日本国内の出版物は国立国会図書館に納めなければならないという「納本制度」があるので、国内で刊行されているものについて、網羅的に調べることもできます。

- **bookplus (紀伊國屋書店／トーハン／日本出版販売／日外アソシエーツ)**

昭和元年より現在までに出版された本の情報、約399万件を検索できます。絶版書・非流通本なども多数収録しています。1986年以降の本には、要旨・目次情報、小説のあらすじも収録されています。2000年以降の本には、著者紹介情報も掲載されています。

- **NACSIS Webcat/Webcat Plus (国立情報学研究所総合目録データベース)**

NACSIS Webcatでは全国の大学図書館（そのほか研究機関、一部の公立図書館も）が所蔵している学術図書、雑誌を横断検索できます。Webcat Plusでは求めている資料だけでなく、それと関連性の高い周辺資料まであわせて検索できます。

雑誌掲載論文も調べられるNDL-OPAC

「NDL-OPAC」には雑誌記事索引の機能もあり、キーワードを入力すれば、人文科学・社会科学・自然科学の雑誌記事・論文の題と掲載雑誌（国内発行の学術雑誌、専門誌が中心）が検索できます。なお雑誌掲載論文の調べ方については、次ページを参照してください。

(4) 雑誌掲載論文の検索

図書館公式サイト → オンラインデータベース一覧 → 和文雑誌・欧文雑誌

研究成果が発表されるのは図書だけではなくありません。学会誌や紀要などの定期刊行物にも多くの論文が発表されています。どのような定期刊行物にどのような論文が掲載されているかについては、NDL-OPACのほか、以下のデータベースで調べることができます。

- **CiNii Articles (国立情報学研究所論文情報ナビゲータ)**

国内最大級の雑誌・論文記事データベースです。学術雑誌や研究紀要に掲載された論文が検索でき、論文によっては本文そのものを読むこともできます。

- **magazineplus**

(国立国会図書館／機械振興協会／経済文献研究会／岩田書院／日外アソシエーツ)

これも雑誌・論文記事のデータベースですが、NDL-OPACやCiNiiが学術文献を中心に収録しているのに対し、学術雑誌のみならず一般誌・業界誌や年報類、また論文集所収のものまで幅広く採録しているのが特徴です。

必要な論文が見つかったら、掲載誌がどこに所蔵されているかを法政大学図書館OPACやNACSIS Webcat/Webcat Plusで確認して入手しましょう。

【法政大学図書館にない資料を手に入れるには】**• 法政大学各図書館のレファレンスカウンターを利用する**

どの図書館に所蔵されているか確認できたら、図書館間相互協力によって、レファレンスカウンターを通じ、図書の取り寄せや複写のサービスを受けることができます。直接、その図書館を訪問する場合は、紹介状を発行してくれます。

一部のサービスについて、OPACよりオンライン申込みもできます。

• 法政大学各図書館に購入希望を出す

図書を購入してほしい時には、閉架・開架各カウンターで依頼することができます。また、OPACよりオンライン申込みもできます。

• 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟図書館を利用する

法政大学図書館は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムに加盟していますので、加盟図書館との相互サービスを受けることができます。加盟図書館を直接利用することが可能ですが、それぞれの図書館の利用規定をよく確認した上で利用しましょう。

• 国立国会図書館を利用する

「NDL-OPAC」で東京本館に所蔵されていることが確認できたら、直接、国会図書館に行くのも一つの方法です。満18歳以上なら誰でも利用できますが、利用の仕方に、大学図書館や一般の図書館とは異なる点がありますので、注意して下さい。なお、国会図書館では個人への館外貸出は行っていません（制限はありますが、複写は可能です）。



成績評価を受ける GPAとは

GPAのチェックポイント

- ☑履修登録を抹消せずE評価となった場合も、その単位数が分母に加算されるためGPAは下がります。受講しない科目は、期限内に履修登録を抹消するようにしましょう。
- ☑不合格 (D、E評価) になった科目も再履修して単位が認定されれば、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに算入します。
- ☑教職科目や資格科目など、卒業所要単位以外で履修する科目はGPAには算入されません。

法政大学では、2008年度以降に開講した全科目においてGPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。

(1) 成績評価基準と合格点

① 成績評価基準

成績評価基準は5段階制 (A⁺、A、B、C、D) です。

② 合格点

合格点は60点以上です。

成績評価	合格 (単位修得)				不合格	
	A ⁺	A	B	C	D	E
評価基準	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-0点	未受験・他

*評価基準：各担当教員の科目ごとの評価 (試験、レポート、出席など) に基づく点数

【目標はB以上】

合格点は60点以上になりますが、これは合格と認められる最低の成績であって、海外の大学などでは70点以上がその科目の要求を満たす成績と考えるところが多いようです。B以上の成績を修めれば、皆さんもその科目を理解したという実感がわくでしょう。皆さんが常にB以上の成績を修められることを期待します。

(2) GPA制度について

① GP (Grade Point) について

上記の5段階の成績評価A⁺、A、B、C、Dと未受験・その他の場合の評価Eに、それぞれグレードポイント (Grade Point) がつきます。5段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりとなります。

成績評価	合格 (単位修得)				不合格	
	A ⁺	A	B	C	D	E
評価基準	100-90点	89-80点	79-70点	69-60点	59-0点	未受験・他
GP	4	3	2	1	0	0

② GPA (Grade Point Average) について

皆さんが履修した科目の成績評価としてA⁺からDまでの5段階評価がつきますが、5段階評価およびEを4～0までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これがGPA (Grade Point Average) です。GPAの算出方法については次のとおりです。計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記します。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録した各科目のGP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

③ GPAを表示する書類について

• 成績通知書

- i. 各セメスターのGPA
- ii. 直近のセメスターまでを通算したGPA

• 成績証明書

直近のセメスターまでを通算したGPA

④ 登録の抹消について

未受験その他によるE評価の科目は、GPA計算式において、GPを0点として分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、E評価が多いほどGPAが低下します。その理由は、皆さんがしっかりとシラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたいので、科目登録してもらいたいからです。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に申し出れば、登録を抹消することができます。登録抹消の期限については、各所属の指示等で必ず確認するようにしましょう。

⑤ 活用方法

GPAはみなさんの成績を数値化し、客観的にみるための手段です。セメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1年次と2年次、あるいは3年次、4年次の成績を比較したり、推移を確認することで学習効果を自分で確認することができます。GPAが上がっていれば、さらなる学習の展望が拓けます。また、下がっていれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA制度によって、皆さんは自分の学習を自分で管理できるようになるため、この制度を活用し、大いに役立ててください。

【海外大学の事例紹介】

GPA制度は米国やヨーロッパの大学においても用いられている国際的な成績評価システムといえます。一般的にどのように利用されているのかといえば、学生が自分の学習状況を客観的に把握し、学習を促進するツールとして用いられています。たとえば、すべての科目の成績評価がCだとします。すると、GPAは「1」になります。日本の多くの大学においては、この成績で卒業できると思います。しかし、米国の大学の場合、入学時からの通算GPAが「2」以上でなければならないとしている大学もあり、卒業できないこととなります。これは、卒業生の質を保証するためです。学生は卒業要件であるGPA「2」をクリアしようと学習計画を立てます。また、よく誰々氏は何々大学を首席で卒業したなどと言われますが、成績優秀者はGPAで決めます。身近なケースを例にとれば、皆さんが海外の大学へ留学される場合、あるいは海外の大学院へ進学を希望される場合、GPAの提示を求められることがあります。これは、入学の条件として、一定のGPA値を課しているためです。



本学の派遣留学制度協定校の一つ米国バイラー大学

FAQ

Q GPAが何かに利用されることはありますか？

A GPA制度は欧米の大学においても用いられている国際的な成績評価システムですので、海外の大学院進学の際には提示を求められることがあります。GPAは選抜基準の参考になる可能性があります。

Q GPA算出の具体例を教えてください。

A 評価がすべて「A⁺」であれば、GPAは「4」となり、すべて「D」であれば「0」となります。具体的な例として下記「法政太郎さんの成績表」を参照してください。

【例】法政太郎さんの成績表

科目名称	評価	GP	単位数	GP×単位数
人間環境学入門 I	A ⁺	4	2	8
英語 I	C	1	1	1
英語 II	E	0	1	0
フランス語 I	A	3	1	3
スポーツ種目 I	B	2	1	2
行政法の基礎	A	3	2	6
NPO・ボランティア論	B	2	2	4
自然環境論 I	A ⁺	4	2	8
生命科学 I	B	2	2	4
地理学 I	D	0	2	0
情報処理基礎	A	3	2	6
基礎演習	B	2	2	4
統計処理 I	A ⁺	4	2	8
合 計			22	54

(各科目のGP×単位数)の総和(54)÷総単位数(22) = GPA(2.45)

Q GPAの算出には不合格科目 (D, E評価) も算入されますか？

A はい、されます。よって、不合格科目が多ければ多いほどGPAは低下します。

Q GPAの算出には教職・資格科目など卒業所要単位外で履修する科目も算入されますか？

A いいえ、されません。
ただし、卒業所要単位を超えて履修した基礎科目・専門科目についてはGPAに算入されません。

Q 修得単位認定 (R評価) や留学による外国大学の修得単位認定 (S評価) はどのように扱われますか？

A R評価やS評価についてはGPAに算入されません。また、グレード評価には馴染まない各学部・学科等が判断した科目については「Pass (合格) / Fail (不合格)」(P-F評価) という形で成績評価をすることもあります。P-F評価指定科目についても同様にGPAには算入されません。

Q 不合格科目 (D, E評価) を再履修して単位修得した場合のGPAはどのように扱われますか？

A 不合格科目 (D, E評価) でも再履修の結果、単位が認定されれば、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに算入します。ただし、SemesterごとのGPAについては、さかのぼって修正することはしません。

授業改善アンケート

FDってなに？

FDとは Faculty Developmentの略。大学などの教育機関が教育の質を向上するためにしている取り組みをいいます。法政大学教育開発支援機構FD推進センターではFDを「“自由と進歩”の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。

記名式だと成績評価に影響しませんか？

授業改善アンケートは記名式ですが、皆さんの回答が成績評価に影響することはありません。アンケートの集計は大学が行い、担当教員へは集計結果と自由記述欄の内容だけが、右ページの図のようなフォームに印刷されて渡されます。

(1) 授業改善アンケートとは

「この授業、わかりにくいな」、「こうすればもっと面白くなるのに」。そんな感想や意見をもったことはありませんか。

学生の皆さんの声を大学のFD活動に生かすため、法政大学では2004年度から原則としてすべての学部・学科、大学院（博士後期課程は非実施）で「学生による授業評価アンケート」を実施してきました。さらに2009年度からは「学生による授業改善アンケート」と名称を改め、従来の段階評価中心の質問項目に代えて、より具体的な質問項目や自由記述欄を多く含むアンケートを実施することになりました。実施方法については、学生の皆さんが責任をもって回答できるよう、2009年度から従来の無記名式から記名式に変更しました。また学期の途中でも改善の効果を出せるよう、従来の学期末アンケートに加えて、学期初めと学期途中の3種類のアンケートを用意し、必要に応じて実施できるようにしました（大学院は学期末のみ）。

(2) アンケートの集計と分析

それでは、皆さんに回答していただいたアンケートは、その後どうなるのでしょうか。アンケートの回答用紙は、大学が回収した後、授業ごとに集計され、担当教員にその結果が通知されます。右ページの図は2011年度前期の「学生による授業改善アンケート〈期末〉」の集計結果です。ここには「この授業を履修してよかったと思いますか」などの質問に対する回答結果が、パーセントによって表示され、最後に自由記述欄に寄せられた意見や感想がまとめられています。

2011年度前期「学生による授業改善アンケート〈期末〉」集計結果(学部/担当教員別)

学部	担当教員	授業科目	履修者数	有効回答数	有効回答率
法学部	山本 浩一	憲法	100	85	85%
経済学部	田中 健一	経済学	120	100	83%
文学部	佐藤 美穂	国文学	80	70	88%
工学部	鈴木 一郎	機械工学	150	130	87%

※ 有効回答率は、有効回答数/履修者数×100で算出されています。

自由記述欄

※ この欄は任意で記入してください。記入内容は、授業改善アンケートの結果と合わせて教員に送付されます。

1. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」/「いいえ」/「コメント」)

2. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」/「いいえ」/「コメント」)

3. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」/「いいえ」/「コメント」)

4. この授業を履修してよかったと思いますか。 (「はい」/「いいえ」/「コメント」)

5. この授業の履修についてお聞きします。(複数回答可) ... その他

6. 履修後には役にたつか、役立つ場面を挙げて下さい。(複数回答可) ... コメント欄シート参照

7. この授業を履修してよかった理由を挙げて下さい。(複数回答可) ... コメント欄シート参照

8. 履修後には役にたつか、役立つ場面を挙げて下さい。(複数回答可) ... コメント欄シート参照

「学生による授業改善アンケート〈期末〉」の集計結果

授業改善アンケートの
チェックポイント

- ☑ アンケートの結果は、授業改善の組織的な取り組みのためのデータとして活用されます。授業改善に寄与するという自負をもって正確かつ責任ある回答を心がけましょう。
- ☑ 自由記述欄に書かれた皆さんの意見や感想は、集計結果にそのまま転記され、担当教員に渡されます。皆さんの意見や感想が授業改善に役立つよう、具体的な記述を心がけるとともに、読み手に不快感を与えるような表現や内容は慎みましょう。

(3) アンケートの活用と成果

「私のアンケート、何かの役に立ってるの？」 そう思った人もいないのでしょうか。各学部や学科、研究科では、アンケートの結果を授業改善に生かすために、さまざまな取り組みを行っています。たとえば、文学部心理学科・人文科学研究科心理学専攻では、各教員がアンケートから得た「気づき」を文章化し、学生がよく利用する実習室わきの掲示板に張り出して、学生へのフィードバックを行っています。また、専門職大学院のイノベーション・マネジメント専攻では、教育の質向上委員会という組織を作り、専攻主任・副主任とともにアンケート結果を検討し、評価が極端に低い授業については、改善のための努力を促しています。

また、シラバスには授業改善アンケートによる気づきの欄も設けられており、授業の担当者がどのような改善の努力を行っているかが分かるようになっています。

(4) あなたの声を授業改善に

皆さんの感想や意見によって、大学の授業がどんどん改善されていく。それって素晴らしいと思いませんか。FD活動には、教員ばかりでなく、職員、学生の三者が問題意識を共有し、相互に意見交換をしながら組織的な活動を進めていくことが必要です。なかでも実際に授業に参加している皆さんの感想や意見は、教員に多くの「気づき」を与えるばかりでなく、大学全体の教育のあり方を考える上でも重要な手がかりを与えてくれます。

授業改善アンケートを通じて、あなたの声を本学のFD活動に生かしてください。



文学部心理学科・人文科学研究科心理学専攻では、各教員がアンケートから得た「気づき」を文章化し、学生がよく利用する実習室わきの掲示板に張り出しています

困った時の学習Q&A

Q 海外の大学に留学したいのですが、大学はどんなサポートをしてくれますか？

A **国際交流センター**

法政大学には「法政大学派遣留学制度」、「認定海外留学制度」などの留学制度があります。詳しくは国際交流センターの下記の窓口で相談するか、同センターが配布している「法政大学・海外留学の手引き」をご覧ください。学部独自の留学制度については、学部事務またはSAセンターへお問い合わせください。

【海外留学の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…富士見坂校舎 5階 国際交流センター TEL: 03-3264-9662
 多摩キャンパス…EGG DOME 2階 国際交流センター多摩分室
 TEL: 042-783-2130
 小金井キャンパス…管理棟 3階 国際交流支援室 TEL: 042-387-7018

Q 法政大学の奨学金制度にはどのようなものがありますか？

A **学生センター**

本学で扱っている奨学金には、法政大学独自の奨学金、日本学生支援機構、民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金があります。法政大学独自の奨学金には、「経済的支援を主目的としたもの」「学業やさまざまな分野で活躍した学生を奨励するもの」「各学部独自のカリキュラムに沿ったもの」などがあります。奨学金関係掲示板やホームページでこまめに確認してください。特に4月上旬には多くの奨学金の募集があります。また、家計支持者の死亡・失職・病気などにより家計が急変した場合の奨学金もあります。各奨学金の詳細は各キャンパスの奨学金担当窓口にお尋ねください。

【奨学金担当窓口】

市ヶ谷キャンパス…外濠校舎 1階 学生センター厚生課 TEL: 03-3264-9486
 多摩キャンパス…EGG DOME 2階 学生センター多摩学生生活課
 TEL: 042-783-2151
 小金井キャンパス…管理棟 2階 学生センター小金井学生生活課 TEL: 042-387-6042

Q 障がいのある友人の力になりたいのですが、具体的にどうしたらいいか、よくわかりません。

A **障がい学生支援室**

障がい学生支援室は、現在、市ヶ谷と多摩の2キャンパスに設置されており、障がいのある学生がその他の学生と同じように講義を受講できるようにするための「講義保障」を中心に、障がい学生が社会へ出るための自立をサポートしています。また、これらの活動は学生ボランティアによって支えられており、障がい学生とともに支援学生の双方が成長できるコミュニティを目指しています。こうした活動に興味のある方は気軽に支援室までお越しください。

【悩みや不安の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…58年館 1階 障がい学生支援室 TEL: 03-3264-6718
 多摩キャンパス…総合棟 2階 障がい学生支援室 TEL: 042-783-4038

Q 「これってセクハラ?」「アカハラかも?」と感じたら、どこに相談すればいいですか？

A **ハラスメント相談室**

ハラスメントの被害を受けていると感じたら、ご相談ください。専門の資格を持つ相談員が相談者のプライバシーに配慮しながらお話をお聞きし、解決に向けてサポートします。一人で来るのが不安な場合は、信頼できる友人や関係者に同行してもらうこともできます。ハラスメント相談室は、ハラスメントのないキャンパスを目指し、防止・啓発活動に取り組んでいます。

【ハラスメントの相談窓口】

ハラスメント相談室 TEL: 03-3264-4409
 E-mail: stopharass@hosei.ac.jp

*携帯電話からメールを送信される方は「@adm.hosei.ac.jp」ドメインからのメールを受信できるよう設定して下さい

Q 今から就職のことが不安です。1年生からできることはありますか？

A **キャリアセンター**

キャリアセンターでは、3キャンパス合計で100を超える就職支援行事をはじめ、1年生から参加できる「自分・仕事・社会を知る」をテーマとした講座等も実施しています。また、個別相談では、専任スタッフ以外にもキャリアアドバイザー、シニアアドバイザー、学生サポーター（内定している4年生）といった様々な経験をもつスタッフが、学年や内容に応じた対応をしています。ぜひ一度キャリアセンターへ足を運んでみてください。

【就職活動の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…外濠校舎 2階 キャリアセンター	TEL: 03-3264-9604
多摩キャンパス…総合棟 2階 キャリアセンター	TEL: 042-783-2172
小金井キャンパス…管理棟 2階 キャリアセンター	TEL: 042-387-6486

Q 学生生活や人間関係のことで悩んだり、不安を感じています。こんなとき、相談できる場所がありますか？

A **学生相談室**

学生相談室では、大学生活で様々な問題に直面したとき、あなたとともに考え、解決の糸口を探したり、よりよい「次の一歩」が踏み出せるよう、お手伝いをしています。誰に相談してよいかわからないとき、一人で悩まず気軽にご相談ください。臨床心理士の資格を持つカウンセラーが相談に応じます。相談内容の秘密は守りますので、安心してご利用ください。

【悩みや不安の相談窓口】

市ヶ谷キャンパス…富士見坂校舎 4階 学生相談室	TEL: 03-3264-9493
多摩キャンパス…総合棟 2階 学生相談室	TEL: 042-783-2158
小金井キャンパス…管理棟 4階 学生相談室	TEL: 042-387-6050

※毎月1回、弁護士による法律相談も行っています。

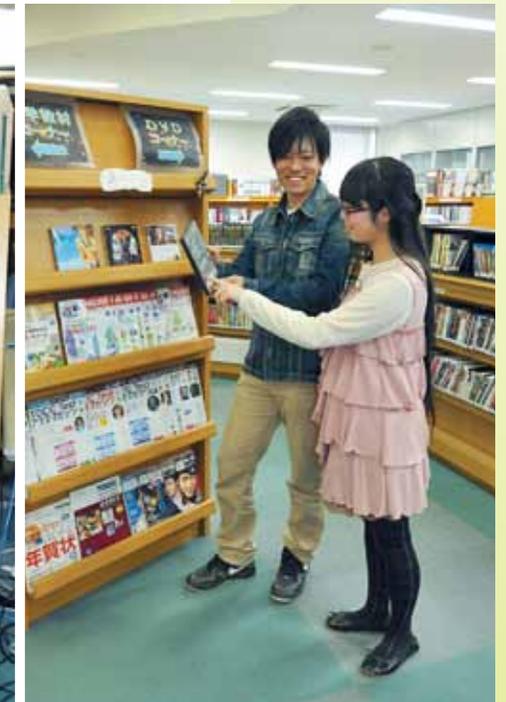
Q 授業の空き時間を有効に活用したいのですが、どこかいい所はないですか？

A **AVライブラリー（市ヶ谷）、図書館（多摩・小金井）、LLフリーラボルーム（多摩）**

新旧名作映画や語学教材を館内ブースで視聴することができます（DVD、LD、ビデオ、CDなど）。英語をはじめ第二外国語の学習の場として、また、授業の合間にお気に入りの作品を鑑賞する空間としてご利用ください。

【DVDやCDが利用できる視聴覚室】

市ヶ谷キャンパス…ボアソナードタワー 3階 AVライブラリー
 多摩キャンパス…多摩図書館 2階 視聴覚室、総合棟2階 LLフリーラボルーム（持ち込みは禁止）
 小金井キャンパス…西館 地下1階 メディアライブラリー



あなたも挑戦してみよう!

~法政大学のコンテスト・奨励制度~

論文作成にチャレンジしようと思っているあなたには…

〈法政大学懸賞論文〉

法政大学懸賞論文は、日頃の研鑽成果を発表する場として1978年に創設され、これまで多くの先輩たちが優れた論文を発表し、歴史と伝統を積み重ねてきました。入賞者及び入選者には賞状と賞金が贈られます。(総長特別賞30万円、最優秀賞20万円、優秀賞15万円、佳作5万円、入選1万円〈2011年度〉) 6月上旬に募集要項が公示されますので、皆さんも奮って応募してください。過去の優秀作品ならびに募集要項等の詳細については、下記をご参照ください。

法政大学トップページ → キャンパスライフ → 課外活動
→ 法政大学懸賞論文



デジタルスキルに自信のあるあなたには……

〈デジタルコンテンツ・コンテスト〉

デジタルコンテンツ・コンテスト(デジコン)はデジタル技術を駆使して、自分のセンスやアイデア、メッセージを視覚的に「表現」した作品のコンテストです。静止画部門、動画部門、インタラクティブ部門の3部門にわかれており、入賞作品は、皆さんの普段からの制作や努力がなければあり得ない、高度な表現が見られます。6月上旬に募集要項が公示されますので、皆さんも奮って応募して下さい。

法政大学トップページ → キャンパスライフ → 課外活動
→ デジタルコンテンツ・コンテスト



授業以外で知的・社会的活動を始めたいあなたには…

〈学生チャレンジ・サポート制度〉

学生チャレンジ・サポート制度は、正課外活動のうち、文化・学術面における多様な知的好奇心・探求心を充足させる活動や、福祉・環境問題への取り組みなど、社会的貢献を果たそうとする活動の中で、大学から優れた活動として認められた場合、1名(1団体)につき、最大20万円まで企画実施のための助成金を給付する制度です。毎年4月~6月までに計画書を提出し、2011年度は市ヶ谷で15件、小金井で6件、多摩で5件が採択されました。



留学生のあなた、そして留学生を支援したいあなたには…

〈留学生日本語スピーチコンテスト〉

国際化の流れを受け、法政大学でも留学生数は年々増加しており、2011年度は約450名、22カ国の留学生が学んでいます。これらの留学生が法政大学での学生生活で感じた様々な思いを発表する場が年に1度、6月に開催される「留学生日本語スピーチコンテスト」です。

このスピーチコンテストは、法政大学国際学生交流会(Hi-C オレンジ)が主催し、法政大学後援会と国際交流センター後援のもと、1982年より毎年行われてきました。出場する留学生には日本人学生のサポーターがつき、原稿のチェックや発音の練習などを一緒に行います。留学生と日本人学生がタッグを組み、約1カ月をかけてスピーチを練り上げていくなかで、互いの価値観を理解しあい、交流を深める素晴らしい機会となっています。スピーチの審査は本学の教員や後援会役員などを交え厳正に行われますが、毎年、審査員が選考に頭を悩ませるほど、内容面でも日本語の面でも非常にレベルの高いスピーチが繰り広げられています。

授業をもっとよくなりたいあなたには…

〈FD学生の声コンクール〉

FDとはFaculty Development の略。法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、FDを「“自由と進歩”の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。センターでは、本学のFD活動に学生の皆さんの声を活かすため、2008年度から「FD学生の声コンクール」を開催しています。散文、韻文、漫画など形式は自由。入賞者には賞状と賞金が贈られます（最優秀賞5万円、優秀賞2万円、佳作5千円〈2011年度〉）。7月に募集要項が公示されますので、皆さん奮ってご応募ください。2011年度の入賞作品がこのハンドブックの巻末に掲載されています。



学外で表彰されたあなたには…

〈開かれた法政21「学術・文化奨励金」〉

開かれた法政21「学術・文化奨励金」は、学術・研究活動・ボランティア活動・芸術・芸能等の分野の活動において、学外機関が評価するコンテスト・大会・懸賞論文等で特に秀でた成果を挙げ、受賞・表彰等を受けた実績がある個人や団体に対して、1名(1団体)につき最大30万円まで給付する制度です。毎年11月に申請書を提出し、20名を限度に受給対象者を決定します。この奨励金は原則として返還義務のない給付金です。



2011年度懸賞論文の表彰式



2011年度

FD学生の声 コンクール作品集

第4回となった今年度のテーマは 「私語のない授業にするには？」

「私語のない授業にするには、どうしたらよいか？」

学生自ら、自分の受けたい授業作りに知恵を絞りました。

自由な発想で、アイデアをいっぱいふりかけて、

教員と学生がともにハッピーになれる「私語のない理想の授業」を思い描きます。

教員一同を刺激した応募作品をご覧ください。

新 入生の皆さん、毎年、後期には、授業改善のための作品の募集受付が始まります。教員、学生ともにハッピーになるよりよい授業を創るための提案、ご応募お待ちしております。毎年お題は変わりますが、例年7月頃に掲示される予定です。

五七五の17文字で表彰状と賞金がもらえるのは、FD学生の声だけです。最終優秀賞は、法政大学総長から直々に表彰状をもらうことができます。来年発行されるこの学習支援ハンドブックに掲載されます。履歴書に書けば、就職時にご利益があるかもしれませんよ!?

FDとは Faculty Developmentの略

法政大学教育開発支援機構FD推進センターでは、FDを「自由と進歩」の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」と定義しています。

このFD活動に学生の皆さんの声を活かすため、センターでは2008年度から「FD学生の声コンクール」を開催しています。

※受賞者が氏名等非公開を希望している場合、氏名等を記載していません。



法学部 政治学科 2年 本間 達也

「しゃべりたくなる授業!？」

私たちは小学生から大学生までのおよそ10年以上にもわたって私語の問題と隣り合わせでした。授業中の私語は、放置されるか排除されるかのどちらかの措置が取られるのが一般的である。私語は時に他の学生の授業の妨げとなる為、無論その状態を放置するという選択肢はあるべきではないが、教授の権威による教室からの排除を繰り返しつつも、永遠にこの問題は解決しないのではないだろうか。そこで、学生を教室からつまみ出すのではなく、学生が自らの疑問や意見を思わずしゃべりたくなってしまふような授業を作り上げるのはどうだろうか。私語が多い授業は大教室の授業、つまり、教授と学生との距離がある授業で多発する。要するに、この距離感をうめることで、私語ではない、授業をよりよくするための対話が生まれるのである。そのために私は以下2点の方法を提示する。

1点目は、授業の目標が共有されている授業。前期と後期の初回の授業で、シラバスに書いてあるような「授業の目的」をしっかりと伝える。言うだけでなく、しっかりと伝えることが大事である。そして、普段の授業では、授業のはじめに5分程度のオリエンテーションを設け、今日の目標、ここまではしっかりと理解してほしい内容を学生側に伝える。それを黒板の隅に書き、授業中に目的を意識させる。これを行うことによって、学生自身がどこまで理解できていられるのか、また授業をうけるにあたっての計画も立てやすい。

2点目は、双方向性のある授業。教室が広くなればなるほど教授と学生の距離ができてしまい、自然発生的に私語が生まれてしまうのだ。この距離をなくすために、双方向性のある授業を展開したい。双方向性のある授業とは、

1. 学生が疑問点や意見を言える
2. そこにタイムラグが生じないこと
3. 授業に参加しているすべての者に共有されること

以上の3点が行われている授業であると考えます。そこで、これらの条件を満たすツールとして、Twitterの導入を提案したい。大型スクリーンにTwitter表示することによって、授業に参加しているすべての者にリアルタイムで他の学生が考えていることや疑問点が可視化される。また教授もその疑問点を即座に吸い上げることができ、学生の理解度を確認しながら授業を進行できる。さらに、リアクションペーパーの回収による次の授業までの1週間のタイムラグが生じず、興味、関心が刺激されているその瞬間に他の学生の意見に触れ、また新たな興味、関心が芽生える可能性も増える。加えて、授業後に履歴を携帯片手に履歴を見ることによって、いつでもどこでも考える種を得ることができる。

以上提案した「授業の目標が共有されている授業」と「双方向性のある授業」の2点を実践することによって、学生と教授の距離が縮まり、私語ではなく、授業に有効的な対話、「しゃべりたくなる授業」が展開され、自然と私語は無くなっていき、よりよい授業が行えるのではないのでしょうか。

[審査講評]

私語と授業は、隣り合わせ、タイトルである「しゃべりたくなる授業」が示すように授業をよりよくするための対話を生むにはという観点で、3つの提案がされています。ICT技術活用の一例としてTwitterなど、タイムリーで前向きな提案は、目からウロコの作品でした。



国際文化学部 国際文化学科 4年 奥 悠紀子

「授業中の私語と掛けまして、 合唱コンクールで皆が目指すものと解く。 その心は、どちらもきんしよー (禁止よ、金賞)」

まず、なぜ多くの学生は授業中に私語を発してしまうのだろうか。授業に興味がない持てない、友達とのお喋りのほうが楽しい、大勢が喋っていれば自分が喋っていても変わりはない。大体これらが挙げられると思う。多くの学生が少なからず、一度は考えたことだと思う。私自身は、このような散文を書こうとしている人間ではあるが、実際に私語を発したことはある。では自分はなぜ私語を発したのか。自分の行動とそれに伴った意識を振り返ると同時に、反省し、自分の考えが少なからず大学の役に立てれば良いと思う。

まず、突拍子もないことを書くようだが、そもそも私語って悪いことなのだろうか。確かに授業を聞きたい学生も、授業を展開する先生も、うるさくて、気が散る私語にはうんざりする。しかし、私語を発する学生はわざわざ周りに迷惑を掛けてやろう、とは恐らく思っていない。それよりも、会話をする人の心理の根底には「発信欲」というものがあり、それによって会話が繰り広げられる、と私は考える。そして、それに伴う声が雑音と化して、結果的に周りがうるさいと思うのである。

ならば、せっかくの発信欲を有効活用したい。友達との会話の内容がその日の天気であろうと、バイトの愚痴であろうと、恋愛話であろうと、それぞれ発信欲があるのだから。授業に関してだって、発信欲はなきにしもあらず…のはず。ミニレポート、出席カード、授業支援システム上の掲示板、

などアウトプットできるツールは用意されている。しかし、学生の身だと、どうしても背伸びしたり、正直に書けなかったりすることもある。言葉にできない想いや、もやもやと漠然とした考えを持つこともある。そうすると、書いてみてもただただ苦しくなり、内容がなかなかまとまらない。もっと気軽に学生が発信できる方法を考えたい。

「先生と会話。」意外と簡単な話である。会話の相手を先生に変えればいいだけの話だ。難しく考えなくて良い。楽しく、漫才なんかやる気持ちで。まずは先生に「ツッコミ」を入れてみる。「先生、そこ囃んだらアカンやろ。」と簡単なことから始めてみる。一番ベーシックな「なんでやねん」なんて良いツッコミである。「先生、そこ、なんでやねん。おかしいやろ。」それはもう探究心が芽生え始めた証ではないだろうか。言うまでもないが、これらは心の中でツッコむべきである。ツッコミ上手ならフフッと笑ってしまうかもしれない。笑ったらいい。笑ったら、頭に入りやすい。授業は見たところ、先生が作っているものようだが、実は生徒が変形させることができる。自分なりのオリジナリティ溢れる授業にしていくと、きっとこんな謎かけが浮かんでくるのではないだろうか。

法政大学と掛けまして、
運動会の開会式と解く。

その心は、どちらも良いせんせい（先生、宣誓）に出会えます。
おくちです。

[審査講評]

私語のない授業、先生の立場、学生の立場、それぞれから考え、どのようにしていけばよいのかを提案しています。ツッコミを上手に利用した先生との会話、言葉のキャッチボールが生み出すオリジナリティ溢れる授業、先生だけでなく、学生も授業に参加し、楽しみながら授業を創っていく、理想の授業ではないでしょうか。



国際文化学部 国際文化学科 3年 安井 和美

私語の時間
授業料にして
何千円?

ヒマならば
せめて静かに
寝てください

先生の
知識を盗む
90分
チャンス逃すな
自分の物にしろ

[審査講評]

皆さんは、授業料のことを考えて授業を受けているでしょうか？ 授業料を1科目あたりに換算してみると結構な額になります。私語をしている場合ではない、授業料に見合う知識をしっかりと学ぼうとする気迫が感じられる作品でした。



文学部 日本文学科 4年 長野 桃子

「信頼の授業」

「私語のない授業にするには？」

このテーマに、私はもうひとつ付け加えたい言葉があります。

「私語のない、楽しい授業にするには？」

私は現在大学四年生となり、さまざまな授業を受けてきました。それらの授業を振り返ってみて、もっとも授業らしく、かつためになったなあと感じているものはやはり「楽しかったなあ」と今も思える授業です。

学生は、私語がしくて学校に来ているわけではありません。授業に興味をもてなくなると、関係のない話をしたくなってしまうのです。関係のない話は学生たちの「つまらない」という気持ちを満たし、どんどんそちらに神経が集中していきます。そうして授業の中に私語がはびこり、講師は怒ったりどうしようもなくなってしまうのです。

だが、「私語のない授業はいい授業」とは限らないと思います。講師がいつもびりびりして、少し相談しただけでも怒られてしまう授業は、その時はたとえ静かであっても、私の頭の中にはもうその内容は残っていません。授業でなくとも、90分の沈黙というのは人間にとってもけっこうなストレスになりえるし、それが何度も続くとなるとなおさらです。

では、一体何が私語を食い止め、かつためになる授業にできるのか。

それは、私語が「授業に関係のないもの」になるのではなく、「ひとつの発言」になるようにできればいいのだと考えます。

たとえばこんな授業。

大人数の授業の場合は、アシスタントが2、3人ついて、教室にスタンバイ。関係のない話をしているような学生は、その場で彼らが名簿にチェックするようにします。(このプレッシャーだけでも多少の私語は減るように思いますが、これはあくまでもサポートとします)

そして、授業が進み、講師は答えを教えようと思いますが、その前に学生たちに「わかる人はいますか」と尋ね、極めつけにこう言います。

「いい答えの人は、ポイントアップね！」

学生は考えだします。「いい答え」って、なんだろう？ 私語は相談になり、教室はいろんな答えが交差し、いつしかそれは発言になります。アシスタントがマイクを持って学生たちのもとを訪ね、「いい答え」……正解だったり、柔軟だったり、単純におもしろい発想だったり、そういった答えをまたチェックしていきます。

しばらくはそうしてうるさくなりそうですが、この時友人たちと相談して考えたことは、後々になっても覚えていたりするものです。この「思考」「相談」が実は授業に大切なのだと私は思います。ただ受け身で居続けることは、普段の人間関係の中でも辛くてつまらないものです。それはもちろん、授業にも言えることではないでしょうか。

そして、しばらくしてから講師は言います。

「正解を発表します」

すると、しばらくの間がやがやしていた教室は瞬時に収まります。誰もが、その「いい答え」を聞きたくなるからです。そこで聞く本当の答えは、自分たちで考えたその答えと一緒に照らし合わせることで、また学生の記憶に残るものになるのです。

この時大切なもの。この掛け合いが達成されるために必要なもの。それは「信頼関係」です。講師は学生を信頼し、彼らに自分たちで答えを考える時間をあえて与える。その時間は学生たちの時間。そこを生かすも殺すも、彼ら次第。そこを信頼して、考え、導き、時に柔軟に面白い視点から物事を考えてもらう。

人は信頼されると、自分を信じてくれる人を信頼できるようになります。

学生は楽しみながら言葉を掛け合い、考え、そして答えを求めます。そして最後に講師がその答えを導くとき、ここに「信頼関係」が生まれてくるのではないのでしょうか。

「この人のやり方は面白い」

「自分たちが考えて発言することでポイントもらえるなら頑張ろう」こんな考えがあってもいいと思います。それが知識につながっていくのであれば、講師の目的は達せられるのです。

このやり方はあくまでも一例です。毎回面白いアンケートを実施するとか、講師が教壇に立たずにうろうろと回って話を聞いてもいいでしょう。学生に興味を持たせる授業をする講師を、学生は「この人の授業はちゃんと聞こう」と信用します。それが結果的に、「関係のない話がない授業」につながっていくはずですよ。

私語のない授業は確かに集中できます。でも、それは一時のものになる場合が多いように思います。その瞬間だけ必要な知識を埋め込むには重要なことです。しかし、そこに講師と学生が掛け合って本当の答えを考えたり、試験には関係なくてもぜひ知ってほしい知識などを楽しく教えてもらえれば、そこに生まれた「信頼関係」はきっとずっと頭のどこかに残っていくはずですよ。

私はほとんどの人が最後の学生生活になるであろうこの大学でこそ、「私語のない授業」というよりも「発言の多い楽しい、ためになる授業」がひとつでも多くあってほしいと、そう願っています。

[審査講評]

私語のない楽しい授業にするには?ということ、4年間、法政大学で授業を受けてきた体験をベースに書かれており、説得力のある作品でした。受ける学生も、講義をする教員も両方が協力しハッピーな気分になれる授業、そんな授業をぜひ増やす努力をしていきたいですね。



経営学部 市場経営学科 2年 吉原 潤一

「私の体験した、私語のない授業にする“ワザ”」

みなさんは、私語の多い授業についてどう思いますか？ ガヤガヤとうるさい授業ってやっぱり集中できなくて困りますよね。

でも、授業を受けているときに何気なく、「この授業って、なんで私語が多いのだろう」って考えたことありますか？ つまり、どうしてこの授業は友達とおしゃべりしやすい環境なのだろうか、ということです。

同じ学生が同じメンバーで授業を受けていたとしても、授業によっておしゃべりするかどうかかなりの差がでますよね。それは、やはり授業の進め方や決まりなど教師の力量が関わっていることを表していると思います。

そこで私がある授業で体験した、私語をなくすいくつかの“ワザ”を紹介したいと思います。

ひとつめの“ワザ”は、リアクションペーパーを書かせることです。これはいくつかの授業で行われていましたが、効果あります。

授業で取り扱った論点またはビデオなどの感じたこと、思ったことを教授が指定して書かせます。そして、もうひとつ授業をとおして感じたこと思ったことを自由に書く欄も用意します。そうすると、普段発言できない人や授業では、より教授と学生が相互につながることができます。おしゃべりしないで書くことに意識がいく人も自然に増えてくるとは思いません。

次に紹介する“ワザ”は珍しいタイプですが、私語をしている人に対して直接先生が話しかけることです。

私が受講していたある授業でのこと。その先生は学生に語りかけるように講義する先生であったが、そのときは、話すのに間を置いたと思ったら、



理工学部 創生科学科 1年 福島 広大

私語ですら 議題へ変わる その講義

奥深き故 私語も静まる

[審査講評]

私語から授業の議題へ、先生の絶妙な話術がみんなをうまく引き込む、さすがプロの仕事ということを感じさせる授業、ぜひ受けてみたいですね。

「教室の右ブロックのちょうど真ん中あたりに座ってる2人！楽しそうになに話してるんだい？」
と言ったのです。寝耳に水のように話しかけられた2人はびっくり。
「先生に言えないような話はしないようにな」
と優しく先生はチクリ。
2人は押し黙り、以来、この授業では堂々と私語をしなくなりました。

でも、その先生は別のときにこうも言っていました。
「たいていおしゃべりしたい人とかあてられたくない人だね。だからさ、誰かに意見求めたいときは、後ろの方にいる人に聞くんだ。そうしたら、翌週、後ろの方にいたやつあてられたくないから、真ん中あたりに座るようになっておしゃべりもしなくなったんだ」って。
なんかすごい理論だと思いませんか？ 普通前の方に座ってるやる気のある人にあてる先生が多い中、まさに逆転の発想。

しかも、この先生、前期の最後の授業に
「思えば5月、震災の影響で残念ながら授業が短くなってしまいました。……」
という切り口から始まって
「できることなら、もっとみんなと一緒に授業したかった。前期11回あつというまだったなあって思います。みんなと一緒に授業できて本当に楽しかった。ありがとう！またいつかどこかで！」
って話したのです。ほんの2、3分のことでした。

もちろん、90人いた教室、誰一人が私語をすることなく――。

授業をしていて楽しいって言う先生の熱い思いはやっぱり学生にひしと伝わるものなのです。これが一番の“ワザ”なのでしょう！

なんだか後半は私が受けていた授業のある先生の話のようになってしまいましたね。
でも、私が述べた中で一番伝えたかったことは、先生が学生と一体となって授業をつくりあげること。そして、人数がどうであれ、受講している学生全員を巻きこむような授業づくり。これらが、「私語のない授業」にするのに大切なことだと考えます。
もちろん学生が私語をしなくて集中して授業を受けることも大事だということを、改めて述べて最後の提案といたします。これを読んでくれた教員、学生の一人にでもこの思いが伝わればと思います。

[審査講評]

受けてきた授業体験を元にした私語をなくすワザの紹介をいくつか紹介して頂きました。ちなみに、リアクションペーパーを使ったワザは、法政大学教員の授業改善のための書、「法政大学FDハンドブック」[授業記録]を使った学生とのコミュニケーション：新田誠吾先生（経済学部）にも記載されています。



「拍手をしたくなる授業」

誰しも必ずうるさくてかなわない授業を受けたことがあるだろう。授業をまじめに聞きたいのにうるさくて聞けない、もしくはみんながしゃべっているのだからいいや。と自分もその仲間に加わってしまった記憶もあるだろう。

そんなとき先生たちがいうセリフは決まっていつもこうだ。

「おしゃべりがしたいならどうぞ、外に出てもらってかまわないので。授業を聞きたい人に迷惑です、寝ていてもいいので静かにしてください。テストのとき困るかもしれませんが。」

数秒待つ、沈黙、そして授業が再開される。

・・・がぼつぼつと小さなおしゃべりが聞こえ始め、やがて教室全体ががやがやして。結局はいつも同じことの繰り返し。

私たちは心の奥底で思っている。

「みんなしゃべっているから大丈夫、そんなには怒られない。」

先生たちも思っている。

「どうせ無駄だ、試験で困ればいい、聞きたい人だけ聞けばいい。」

でもあるとき出会った授業で私は面白い体験をした。その授業は大教室で行われ、その日もだんだんと教室ががやがやし始めていた。すると先生が叫んだ。

「こんなにうるさくちゃ集中できないヨ！ ボクの授業をみんなに聞いてほしいんダ！ 絶対みんなの為になるヨ！」

少し呆気にとられた。先生は自分の授業が面白いことにすごく自信を持っているのが伝わってきたし、だからこそ一部の聞きたい人だけでなく全員に聞いてほしいのだと思った。

いつになく静かに授業が進んでいく。すると先生が言った。

「いいネ！こんなだとボクの調子もいいヨ!!」

みんなが笑った、最後までテンポよく授業はすすんでいった。笑いと拍手で授業は幕を閉じた。

そう、先生の授業はいつもみんなの拍手で終わる。みんなの意識が先生に集中していた。

私は思う。私語のない授業に必要なのは私たちの集中力だ。そしてそれには授業の内容だけでなく先生たちにも魅力的であってほしい。

自分たちの授業がいかに面白いのかを聞きたい人が聞けばいいと受け身ではなく聞いてくれ！と全身で攻めていく授業はどうだろう。そして私たちも先生への敬意と集中をもって拍手で始まり、拍手で終わる授業、そんな授業ならば私語も減ってくるのではなかろうか。

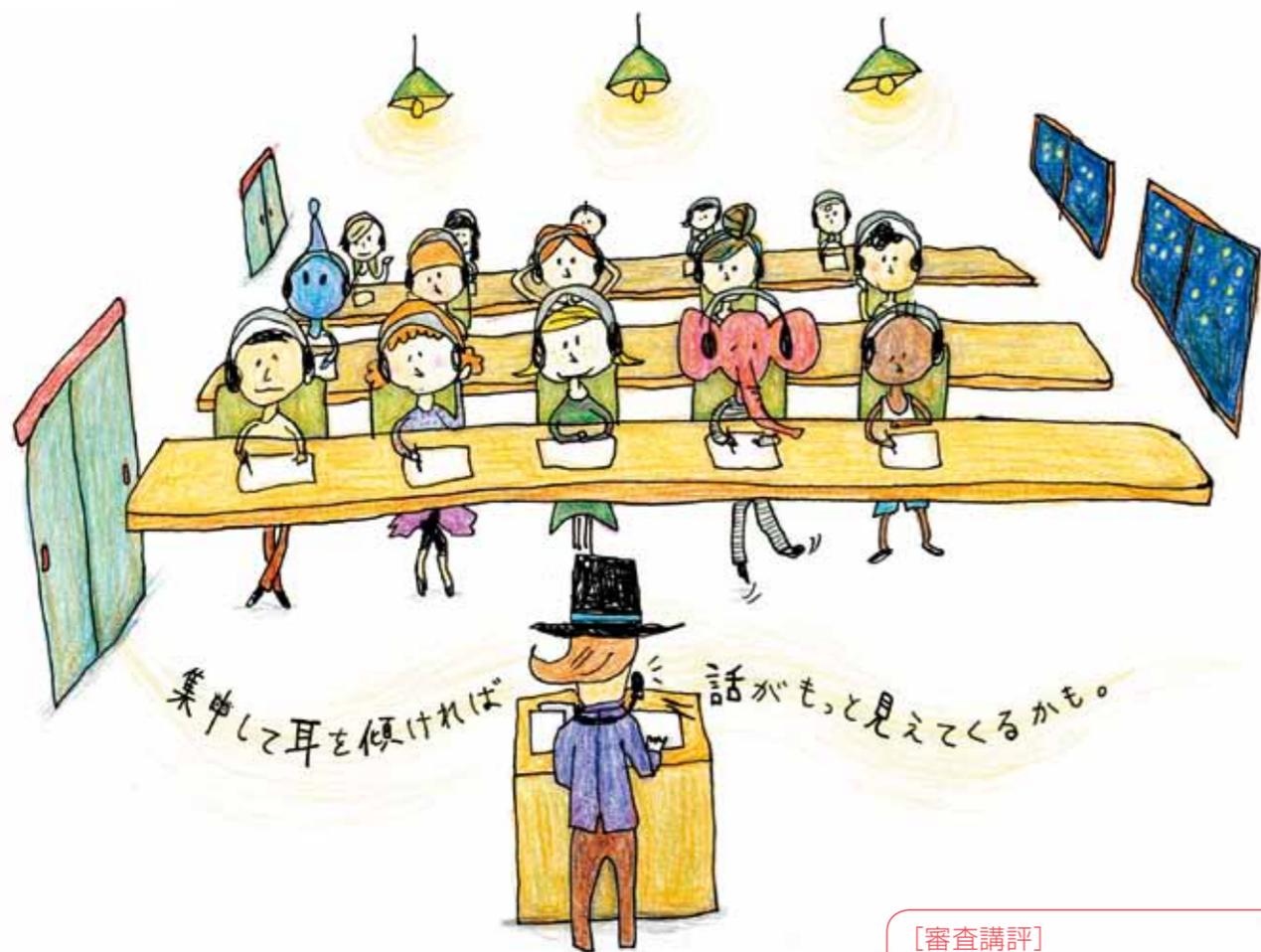
【審査講評】

実体験をもとに書かれた作品。拍手で終わる先生の熱意が伝わる授業、受け身ではなく全身で攻めて受ける講義。ぜひ受けてみたいですね。



国際文化学部 国際文化学科 4年 馬場 麻子

「あなたは今日、何を学びましたか？」



[審査講評]

なんとなく、イメージが頭の中に残る味のある授業風景ですね。ヘッドホンをして授業をすれば、私語はできませんね。



「やる気=私語のない授業」

「この授業は過去最高にうるさい。やる気をなくしてるんだよね」

私が受けてきた授業でそう発言した教員がいた。一方の学生は、友人とのおしゃべりに夢中となっていた。ここまでではないが、少なからず私語のある授業は多いと感じる。しかし、私語のない授業も一方にはある。タイトルとなっている式は、私が4年間受けてきた私語のない授業に共通していたことである。そこで、私語のない授業と言って思い出す2つ授業を例にとりこの式について解説をしていきたい。

〈授業A〉

教員が研究されている内容を話す授業である。やり方としては毎回プリントを配布し、板書を交えて授業を進めていた。ほとんど私語が生じることがなかったため、私は、快適に参加することができたが、年に一回だけ私語が生じた。そこで、なぜほとんど私語が生じなかったのか。また1回だけ私語が生じてしまったのか。その原因を以下に挙げてみた。

〈私語が生じなかった原因〉

- ① 厳しいと言われる教員の授業であるため、やる気の高い学生が多かったから。
- ② 内容がオリジナルであるため、面白いから。
- ③ 少し難しい内容であったため、真剣に聞いていないと理解できないから。

〈私語が生じた原因〉

- ① 一方的に行われることが多く、対話、議論などの双方向性がなかったから。

〈分析〉

この授業で私語が生じなかった最大の理由は、やる気の高い学生にあったと考える。難しい授

業内容であるにもかかわらず学生が履修していたのは、学びたい意欲が高いためであり、その姿勢が教員の話真剣に聞き、メモを取るという行動に表れているのではないだろうか。この学生のやる気の高さが、私語のない授業をつくりあげていたと考えられる。

しかし、一部の学生は私語をしていた。この学生は時間割や単位修得の都合上、授業を履修したため興味関心が無く私語をしてしまったのかもしれないが、一方的に行われてしまっている授業にも原因があるのではないだろうか。つまり、教員は話すことに夢中になってしまい、学生の集中力が切れてしまったことが原因である。もし、やりとりがあれば、学生の気を引き、興味を抱くきっかけをつくることのできるため、授業に集中してもらえたのではないだろうか。

〈授業B〉

何名かの講師によって行われている授業であるが、その中のひとりである外部講師の授業が、私語が生じないことで印象的であった。やり方としては、毎回数枚の資料を配布し、適宜、映像を用いるといった方法であった。また、自分らしさを表現するために文章を書き、それを他の受講生に渡してコメントを書いてもらったり、先輩方のパネルディスカッションを聞いたり、他の受講生に質問をするといったことを授業で行っていた。

なぜこの授業は私語が生じなかったのか。以下に原因を挙げてみた。

〈私語が生じなかった原因〉

- ①身近なエピソードを取り入れており、面白いストーリーの展開があるから。
- ②教員が一方的に話すのではなく、学生同士のやりとりなどの双方向性があるから。

〈原因の分析〉

双方向がある授業内容であるため飽きることも無く参加できたことが、私語が生じなかった原因のひとつかもしれないが、もっとも私語を生じなくさせたのが、講師の話すエピソードである。「去年、就職活動をしていたAさんは…」と話始め興味を引き付ける。気づくと教室中のほとんどの学生が講師の方に顔を向けて、真剣なまなざしで聞くという状態になっていた。そのエピソードも身近なものであり、面白いストーリーとなっていた。そのため、学生は講師の話に夢中となって聞き入っ

ていたのではないだろうか。

〈まとめ〉

以上の分析から、私語のない授業にするヒントがいくつか出てきたが、その中で最も大切なのは〈授業A〉で述べた「やる気」ではないだろうか。やる気があるから、学生側は真剣に聞き、メモを取る。一方、教員側は、〈授業B〉の講師みたいに学生が引かれるようなエピソードを話したり、授業に双方向性を設けるなどの工夫を加えるのではないだろうか。このようにやる気があるのであれば、学生と教員は授業に真剣に向き合うと考えられる。

そしてやる気から、授業に対する面白さが生じる。たとえば、学生は授業に関連する文献を読んだり、教員に尋ねることで授業に対する関心がより深まり、面白さを感じる。一方、教員は授業に工夫を加えたり、他の教員と意見交換を行う中で、たとえば、教育や指導に関すること、学生とのやりとりなどで新しい発見があり、面白さを感じるのではないだろうか。そうすれば、学生は興味関心を持って授業に参加できるため、私語をしようという気持ちにならないし、教員の側は注意をせずに、快適に授業を行うことができるのではないだろうか。このやる気が私語のない授業にするために必要なことであると考えた。

〔審査講評〕

実際に受けた授業をもとに、私語の観点から、2つの授業の分析を行っています。学生の「やる気」をいかに引き出すか、教員はどのように見られているのか?とても参考になる作品でした。



法学部 政治学科 2年 伊藤 瑞木

1. 先生の熱く語る声

生徒の高鳴る胸の音

本をめくる音

ノートを走るペンの音

かき消してはいけないんだ

それは未来へ歩いていく

大切な足音だから

2. 生徒は先生に聞きたい

先生も生徒に聞きたい

一緒に学んで一緒に成長する

お互いに新しい発見がある

みんな夢中だ

気がつけば私語が消えていた

一期一会

みんなと一緒に歩いていく

[審査講評]

先生の熱い思い、学生の熱い思い、それぞれが伝わってきます。私語を忘れるような授業、こんな授業を受けてみたいですね。



社会学部

「私語しちやダメ」



www.comipo.com

[審査講評]

漫画をうまく描けなくても漫画作成ツールを使えば大丈夫！絵より内容で勝負です。ぜひ、次回も応募してくださいね。



国際文化学部 国際文化学科 3年 長谷川 円香

「私の好きな授業」

今年は3月に大きな地震があり、例年とは違う環境での新学期のスタートとなった。

私の学ぶ市ヶ谷キャンパスは、新学期の始まる時期が1カ月遅れ、大規模な節電対策で、夏場は蒸し暑い教室で授業を受けた。そんな中、いつものように先生からの提案型授業を受けていたが、私からの自発的な意欲はあまりなかったと思う。

そんな中、私はある授業に出会った。

授業内容は、異文化でのコミュニケーションとは何か？をテーマに学生が意見を出し合ったり、お互いの考えを交換し合ったりする。

前期の授業では、3月の出来事もあり、『原発問題についてどう思うか?』『節電対策への取り組み方について』というテーマについて意見交換をした。しかし、今現在、節電対策中の環境にいるのに、私はあまり知識がなく、自分から意見を言うことができなかった。後から考えれば意見する内容はたくさんあったはずなのに、その場では発言できなかった。その時、社会で問題になっているトピックに対して、積極的に発言できなかったことが恥ずかしかった。友人とおしゃべりをすれば自分の考えは素直に言えるのに、授業になると発言できなくなるのは不思議だ。その時、私は受身で情報を得ているだけではよくないと思い、次回からはもっと自分から発言しようと思った。だから、先生や周りの学生がどんな意見を求めているのか、それぞれのテーマでどんな知識が必要なのかを考えるようになり、予習をし、新しい情報が欲しくて他の授業も以前よ

り一生懸命に受けるようになった。

若者のコミュニケーション能力が問われている現代で、私のように活発に意見できない生徒はたくさんいると思う。逆に、活発に意見できる環境も少ないのではないかと思った。

学びたい、知りたい、参加したいと思わなければ、自発的に授業に参加できない。授業で学び得た情報はフィールドで表現しなければ、習得したことにはならないのではないかと思う。

先生は私のような消極的な生徒に気を使ってくれた。「あなたはどう思いますか?」と、発言の場を提供してくれたので、一生懸命に自分の言葉で考えや経験を伝えようと努力できた。後期になると、学生同士の仲も良くなって、更にスムーズな意見交換ができるようになっていと感じる。また、みんなが積極的に参加している授業は生き生きとしているし、何よりも楽しい。この授業は、一言で言うと、私語が私語にならないクラスだ。

はじめは聞いているだけの授業の方がいいと思っていたが、今では、この授業が一番好きだ。

私語が私語にならないクラス。とは、前提条件として、学生の授業に対する意欲が高いことだと思う。学生の積極的な姿勢をうまく表現できるこの授業は素晴らしいと思う。今後、私以外の学生もこのような授業に出会ってほしい。

[審査講評]

私語が私語にならないクラス、そのような授業はどんな授業か?具体的に自分が受けた授業の体験談を元に構成しています。私も受けてみたい素晴らしい授業ですね。

学生座談会「私語のない授業にするには？」

〈第4回FD学生の声コンクール〉
受賞者の皆さんと2011年度学生FDスタッフの皆さんに、コンクールのテーマ「私語のない授業にするには？」について話し合っていました。

さまざまな意見が飛び交い、活発な話し合いがなされました。



学生FDスタッフ

学生FDスタッフは、学生の目線から大学の教育や学びの質の向上を目指し、教職員とともにさまざまな活動をしています。

FD推進センターではスタッフを随時募集しています。関心のある方は、ぜひ参加してみましょう。

スタッフ募集に関する 問い合わせ先

FD推進センター
学生FDスタッフ募集係
TEL:03-3264-4268
E-mail:fd-jimu@hosei.ac.jp

どうして私語をしてしまうんだろう——学習意欲と授業内容のミスマッチ——

- 「期待を膨らませて入学しても、いざ授業に出てみたら、大教室で先生がただ一方的に話しているだけ。内容としてはきっと素晴らしいんだろうけれど、1年生でそんなことわかるわけがない。理解できないまま授業がすぎ、そのうちに友達と授業に関係のないことをしゃべってしまう。」
- 「周りの人たちが私語をしていると最初はムツとするけど、自分もそれにひきずられることがある。」
- 「自分が学びたいことと、授業で学べることが合っていれば、私語はないかもしれないけど。」
- 「でも、1年生のうちは専門の授業があまりとれないから、学びたいことを教えている授業には結局出られなくて、意欲が下がってしまう人もいる。卒業単位を揃えるためには、興味のない授業も履修しないとイケないのが現実だし。」

私語のない授業——先生と学生の「一体感」——

- 「自分の受講した授業では、学生が私語をしていると、先生がその私語の中からキーワードを取り出し、授業内容にからめて、ちょっとした小咄にした。教室は静かになっていくし、私語をしていた人たちはびっくりしてた。」
- 「私語が単なる個人的な私語から、授業テーマのディスカッションへ発展していった授業があって、すごく印象に残っている。」



国際文化学部 国際文化学科 4年 加部 牙香

「匿名希望／22歳／女性」

私語をやめろと言われても、

先生がひとりで私語をしているから…

わたし達も話にまぜて下さい。

【審査講評】

確かに、先生と一緒に話せば、私語も私語ではなくなりますね。わたしも“ではなく”わたし達も”というところが、よりよい授業を創り上げていくポイントでしょうか？

- 「大学の先生って、高校までの先生よりずっと遠い存在で、自分から話をできる距離じゃない。でも、もし対話できる距離まで先生が歩み寄ってくれたら、学生の方も『自分も授業を作ってるメンバーの一員なんだ』という実感がわいて、授業に対する真剣さも変わってくるんじゃないだろうか。」
- 「うん、先生と学生の一体感を感じると気持ちが変わる。たとえ受講生が多くて、自分は『その他大勢』ではなく、『先生に無視されていない存在』だと気づくと、授業に集中せざるをえないから。」

私語をなくすために①—私語に対する秘策？—

- 「実は、『出席をとらない』というのも私語対策になると思う。真面目に授業を聴く気もないのに出席点のためだけに出席する、なんていう人たちが教室にいるのが問題で、意欲のある人だけが出席すればいい。」
- 「やる気のない人を排除していくのは、それはそれでおかしい気がする。でも、出席の取り方はよく考えてほしいと思う。真面目に授業に出ている人とそうでない人を、出席カードを工夫することで区別してくれている先生がいて、そういうところでもちゃんと評価してくれていることがわかった、先生に対する信頼感が増す。」
- 「私語をするかしないかは、その人の学習意欲と関わっていると思うけど、1年間の間に学びたいこともどんどん変わっていくんだから、学生の意欲を高めるために、通年授業ではなく、完全にセメスター制にして、もっと柔軟な形で受講できるようにした方がいいのに、と思うことがある。」



私語をなくすために②—学生の意識向上—

- 「自分は、今の大学のシステムを変えなくていいし、先生も今のままでかまわないと思う。本来、大学は自主性を重んじるころなのだし、そうした意識のない人や学ぶ意欲のない人に、先生がその場その場の対処法をとって、甘やかしてもしょうがない。学生自身が学ぶ気持ちを高めていくことが重要。」
- 「なぜ大学に来たか、何を学びたいかということについて、意識したり確認したりする場が必要じゃないか。そのことによって、学生に自主性も生まれるし、授業に対する疎外感を感じることもなくなる。」
- 「大学生の間はいろいろなことが体験できるけど、その中でもやっぱり授業は大事。授業には、先生たちがこれまで研究してきたことが凝縮されているのに、それを学ぶ絶好の機会を私語で無駄にするのはもったいない。」
- 「学びたければ、授業に積極的に参加する。学びたくなければ、行かない。そういう自由が大学にはある。だからこそ、出席するからには、学生側にも『授業』の一員として責任があるはず。」

学生座談会は1時間半にも及び、熱く活発な意見交換が行われました。「私語」は、『他の人に迷惑な行為』というだけのことでなく、授業をめぐるさまざまな問題や歪みと深く関わっていることが、座談会であらためて浮き彫りにされました。

「私語」は、皆さんにとっても身近な問題です。それを一つの切り口として、皆さんも大学の授業のあり方について考えてみましょう。



座談会に出席してくれた第4回FD学生の声コンクール受賞者と2011年度学生FDスタッフの皆さん



『学習支援ハンドブック』作成
プロジェクト・メンバー

小林 一行 (理工学部)

阿部 真弓 (文学部)

大嶋 良明 (国際文化学部)

福澤 レベッカ (理工学部)

安納 隆介 (学務部教育支援課)

撮影協力: 文学部 阿部ゼミナール
法学部・スポーツ健康学部の学生の皆さん

法政大学 学習支援ハンドブック2012

編集・発行: 法政大学教育開発支援機構FD推進センター

©Hosei University 2012 Printed in Japan

発行年月: 2012年4月1日

